

地理空間学会例会

2013年12月6日

農業・農村地理学の調査・研究手順

—富山県黒部川扇状地からの発想—

筑波大学生命環境系
田林 明

1. 発表の目的

村山祐司先生が代表の科学研究費基盤研究(A)「フィールドワーク方法論の体系化ーデータの取得・管理・分析・流通に関する研究ー」の一環として、農業・農村地理学のフィールドワークの手順と方法について整理することを目的とする。

具体的には、黒部川扇状地での農村調査を中心として、1970年代にどのような手順で研究を進めたかを提示し、さらにそれが後の研究の展開にどのようなにつながっていったかを説明する。

発表の手順

1. 発表の目的
2. 地域調査の始まり: 南伊豆の沿岸集落
3. 黒部川扇状地の農業・農村研究
 - 3-1. 農業水利
 - 3-2. 農村変貌
 - 3-3. 農村調査の手順
4. 研究の継続と新しい展開
5. むすび

2. 地域調査の始まり: 南伊豆の沿岸集落

- 1971年4月に東京教育大学大学院理学研究科修士課程に入学。
- 静岡県下田市の臨海実験所を拠点に周辺の沿岸集落を対象にした「人文地理学野外実験」に参加。
- 「共同体的組織を基礎として、集落をめぐる海域から耕地域、山域まで、多様な資源を活用し、組み合わせてきた沿岸集落が、1960年代からどのように変化したか」がテーマ
- 景観観察と当事者から話を聞くこと

2. 地域調査の始まり: 南伊豆の沿岸集落

南伊豆の沿岸 集落－南伊豆町 中木地区－





南伊豆町石廊崎地区

2. 地域調査の始まり: 南伊豆の沿岸集落

南伊豆町石廊崎地区の土地利用

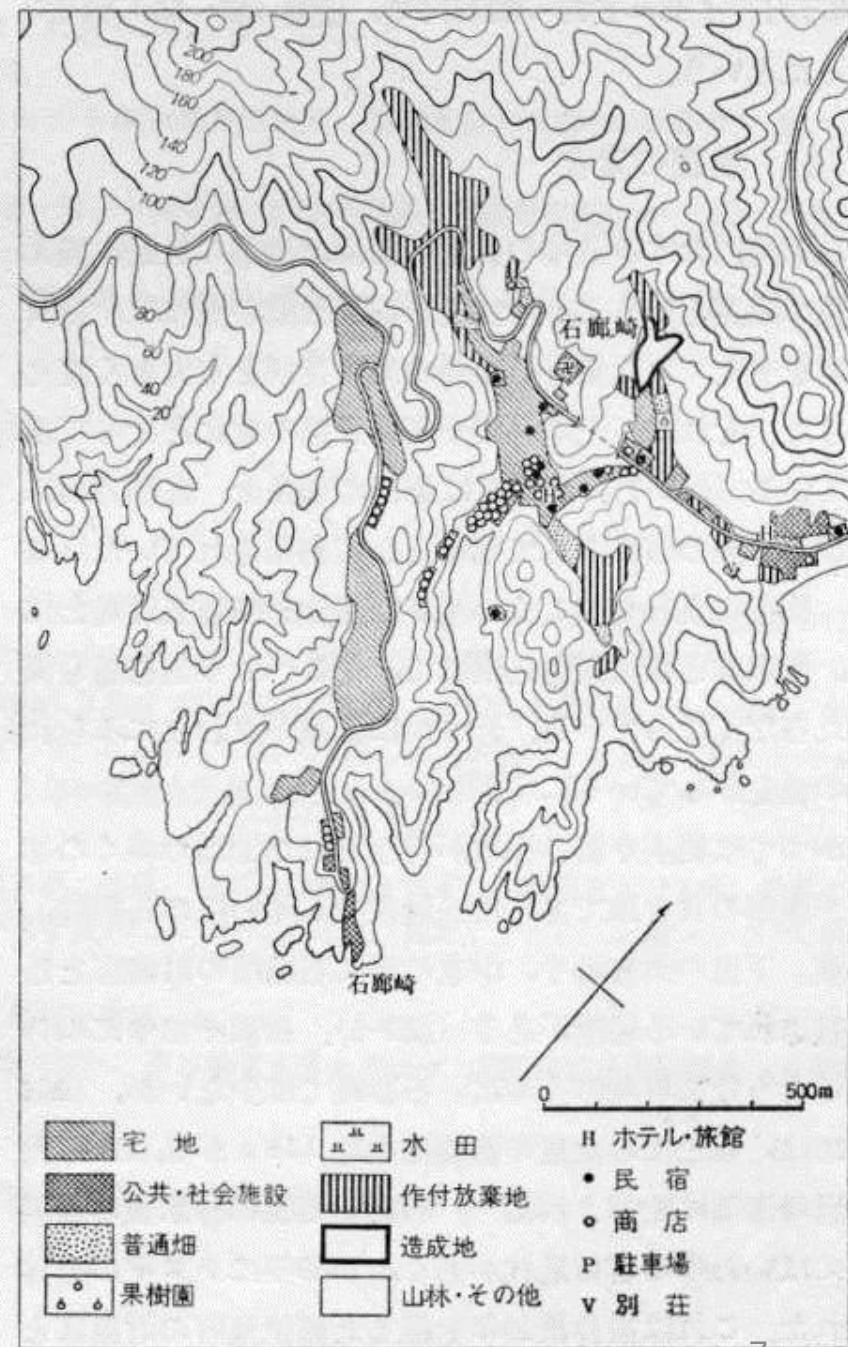
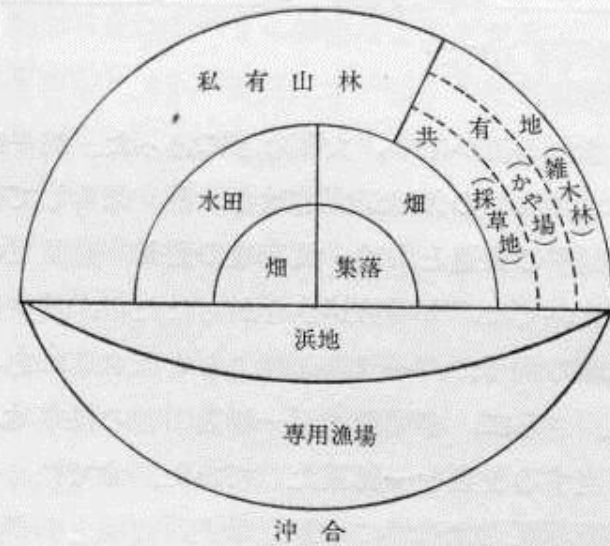


図 9-7 南伊豆町石廊崎地区の土地利用図 (1971. 9.)

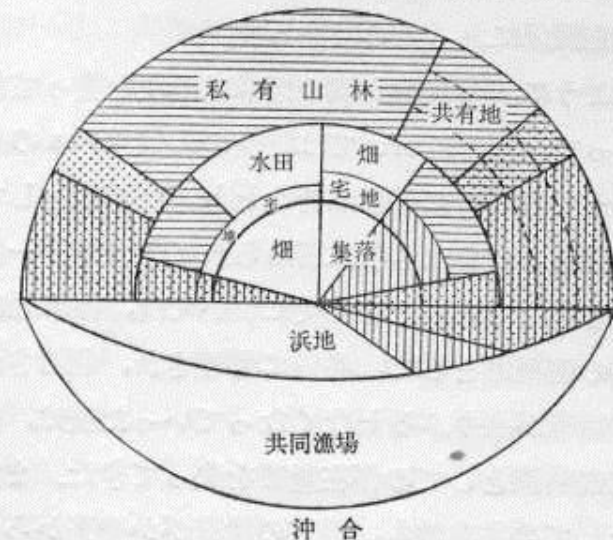
2. 地域調査の始まり: 南伊豆の沿岸集落

南伊豆における沿岸集落の土地利用変化の模式

A. 従来の土地利用



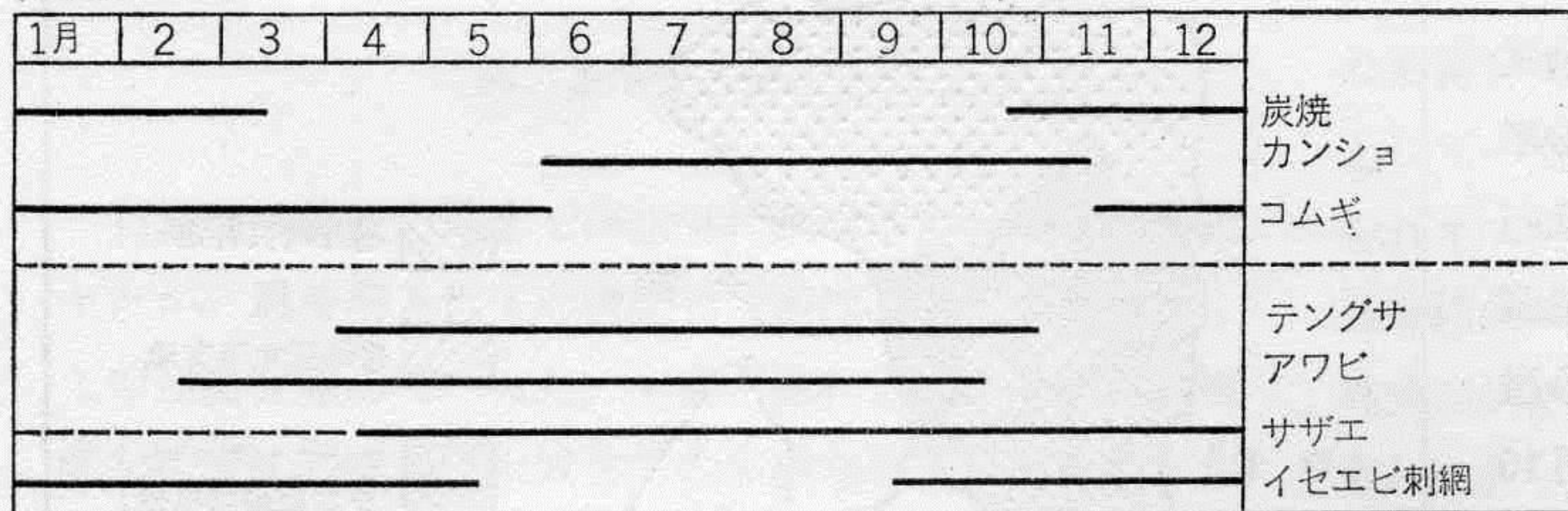
B. 現在の土地所有と利用の仕方



所有権の移動 観光の利用 利用放棄

図 1-8 南伊豆沿岸集落の土地利用変化の模式

(1952～53年)



(1972年)

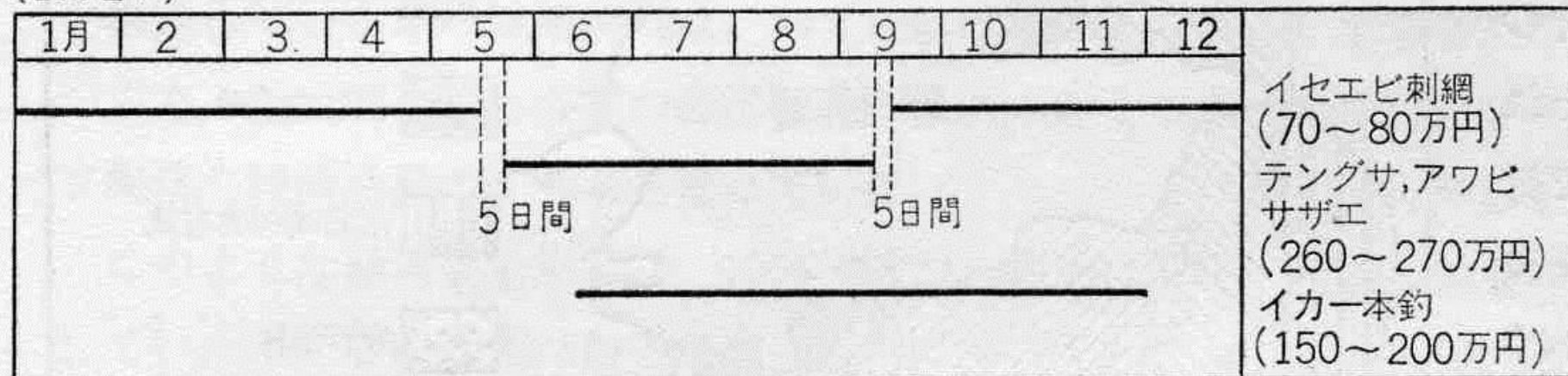


図 9-6 C家の年間労働配分

(聞き取り調査による)

2. 地域調査の始まり:南伊豆の沿岸集落

南伊豆の調査から学んだこと

- 現地調査により土地利用図をつくり地域の特徴を見つけることと土地勘を養うこと
- 経済活動(漁業、農業、観光)の実態と歴史的推移を当事者から聞き取ること
- 就業の組み合わせで、地域の特徴をみること
- 上記のことを説明するために記録や地図、史資料、統計などを集めること
- どこにでも親切な人がいること
- 全体のストーリーは、先生や先輩方の借り物

3. 黒部川扇状地の農業・農村研究

3-1. 農業水利研究(1)

- 1971年11月頃、富山平野の農業水利を対象として修士論文研究を行うことにした。
- A.K. PhilbricによるAreal Functional Organizationの考え方を応用することにした。
- 農業水利がつくる空間的範囲が、農業水利のみならず農業や生活、社会全般にかかわる空間的ひろがりや密接に関係していることを明らかにしようとした。→水津一郎『社会地理学の基本問題』
- 適当な広さと実家との近接性から黒部川扇状地をフィールドとした。

3. 黒部川扇状地の農業・農村研究

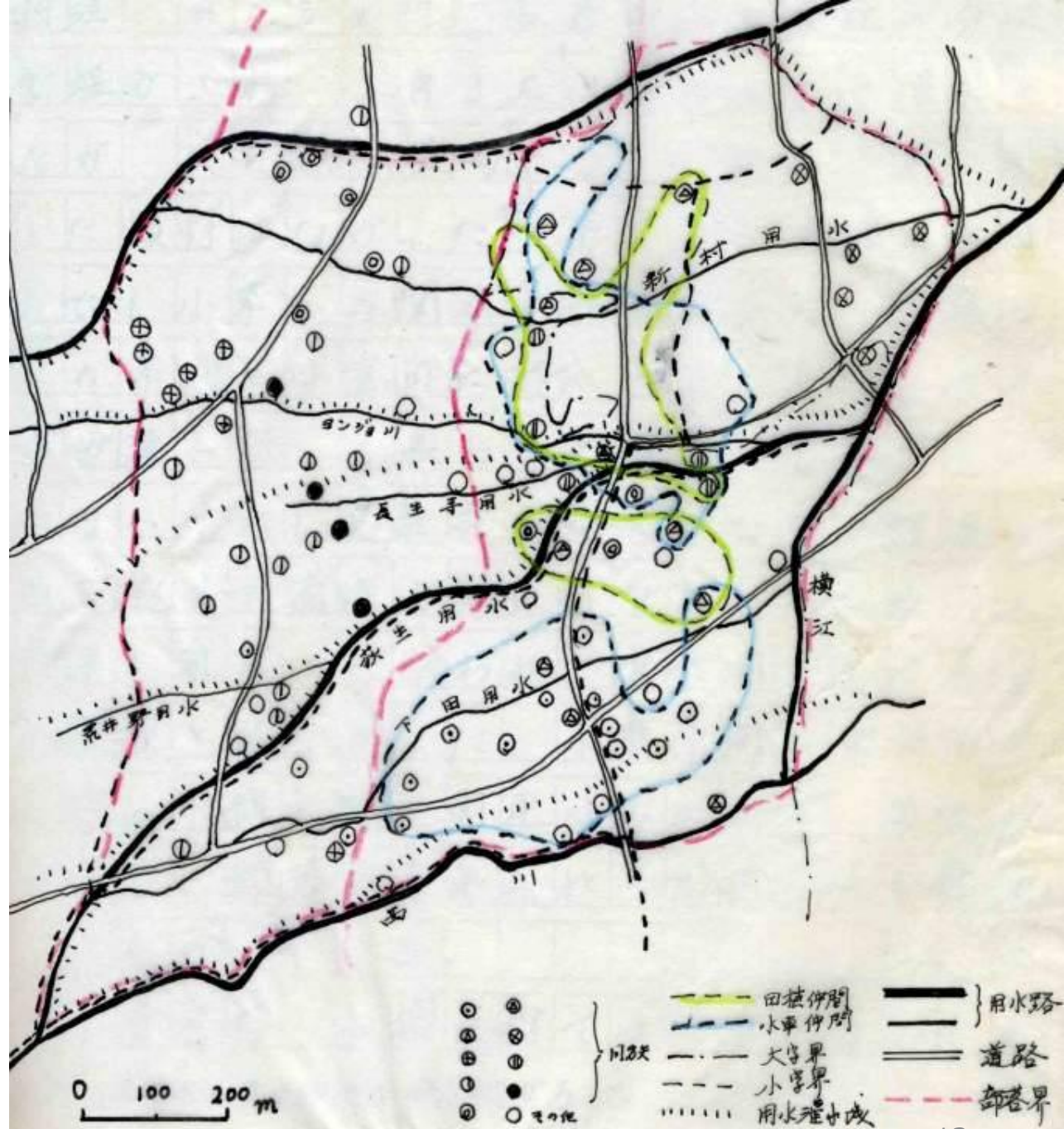
3-1. 農業水利研究(2)

- 後に調査した農業用水が極端に不足した地域や、逆に過剰な水を排除するシステムが不可欠な地域では、農業水利のまとまりが、稲作以外の経済活動や日常生活、社会組織などの空間的広がりとは密接な関係があったが、水量が豊富で水利規制が少ない黒部川扇状地では、そのような事実を多くみつけるのは困難であった。
- 最初の課題設定に対して、フィールドが適切でなかった。
- 農業水利の空間的広がりにはぼってまとめた。

3.黒部川扇状地の農業・農村研究

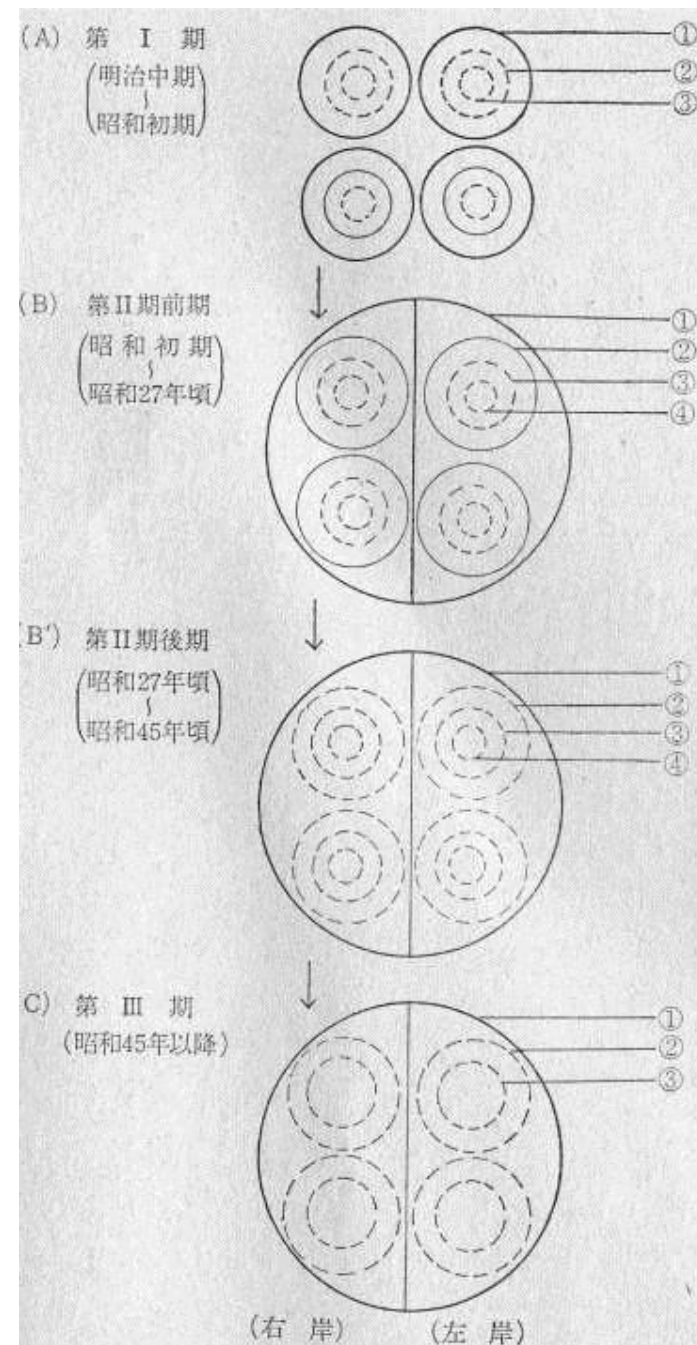
3-1.農業水利研究

黒部市栗林・長生寺地区における水利空間と生産組織、同族集団



3. 黒部川扇状地の農業・農村研究 3-1.農業水利研究(3)

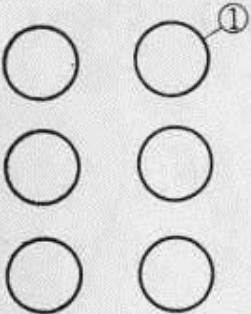
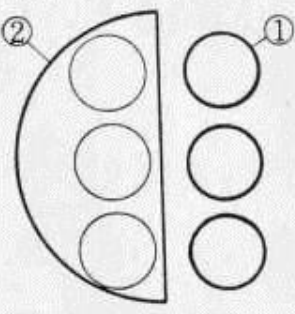
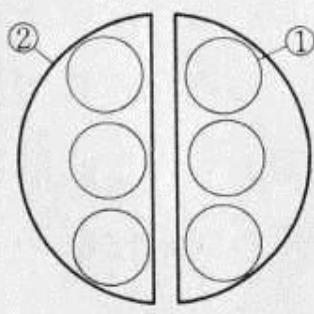
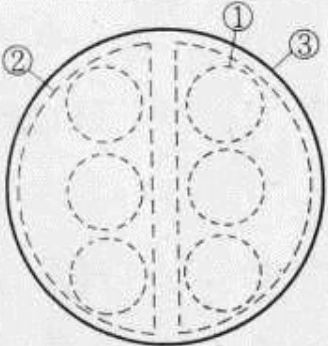
黒部川扇状地における農業水利の空間構造の変化



第 15 図 農業水利の空間構成の変化過程

3. 黒部川扇状地の農業・農村研究

3-1. 農業水利研究(4)

	I 型(並列型)	II 型(部分統一型)	III 型(分割統一型)	IV 型(統一型)
農業水利の 空間構造模式				
黒部川扇状地	～1925年	1925～1932年		1932年～
手取川扇状地	～1903年		1903～1968年	1968年～
高田平野	～1940年	1940～1980年		1980年代中頃～

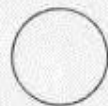
① 第3次水利空間

② 第4次水利空間

③ 第5次水利空間



強いまとまりの水利空間



中位のまとまりの水利空間



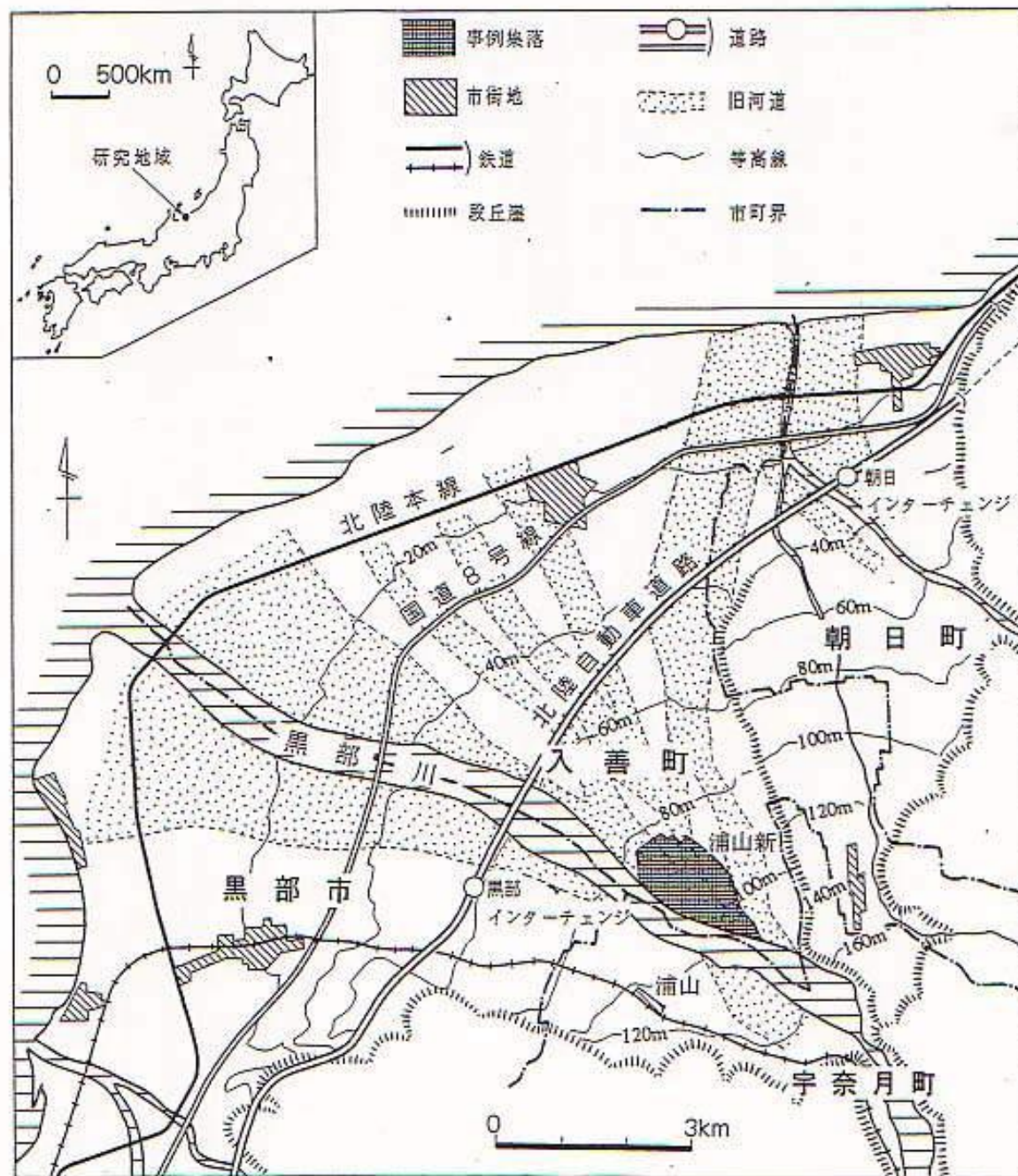
弱いまとまりの水利空間

第13図 北陸地方の扇状地性平野における農業水利の空間構造の進化

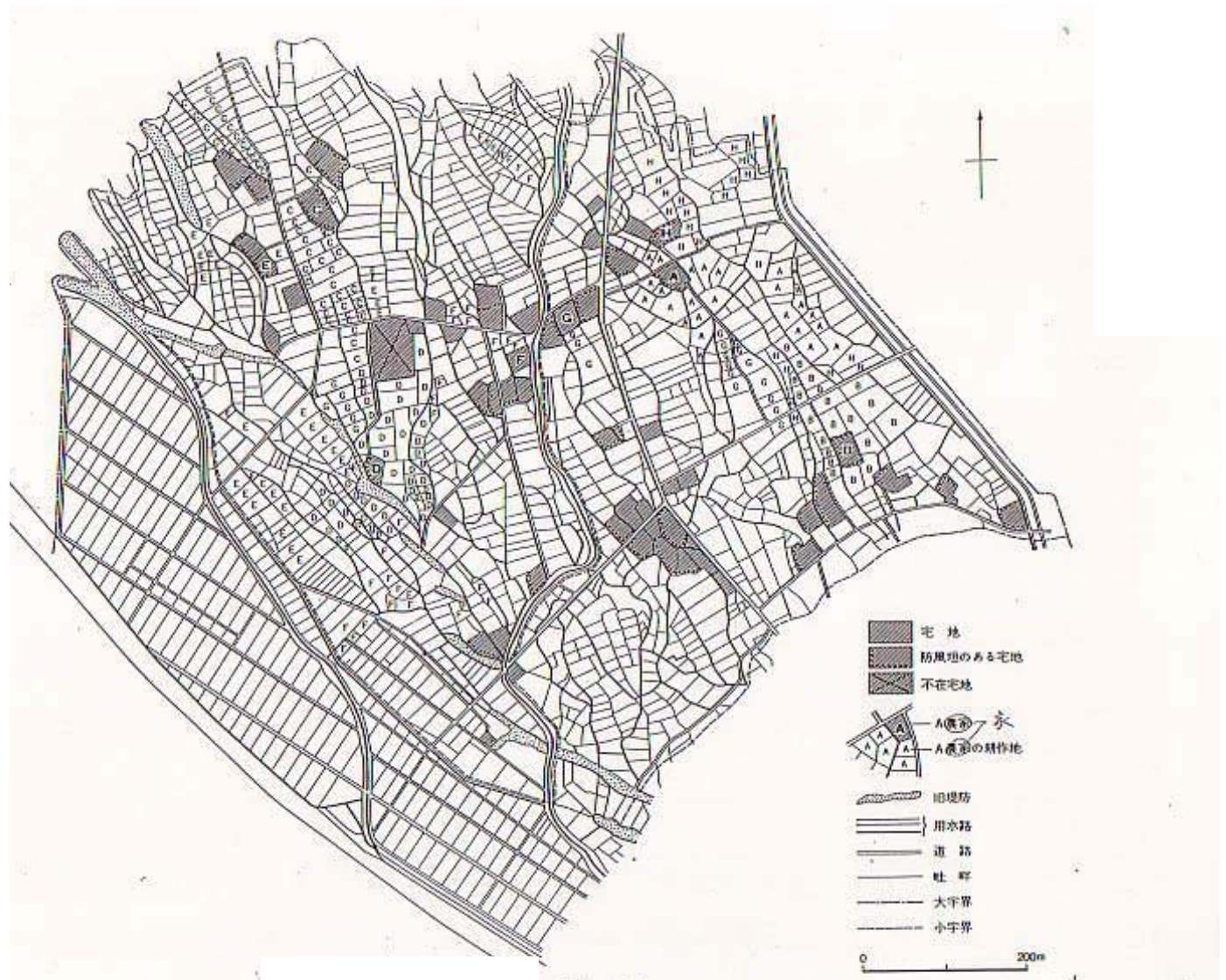
3. 黒部川扇状地の農業・農村研究

3-2. 農村変貌

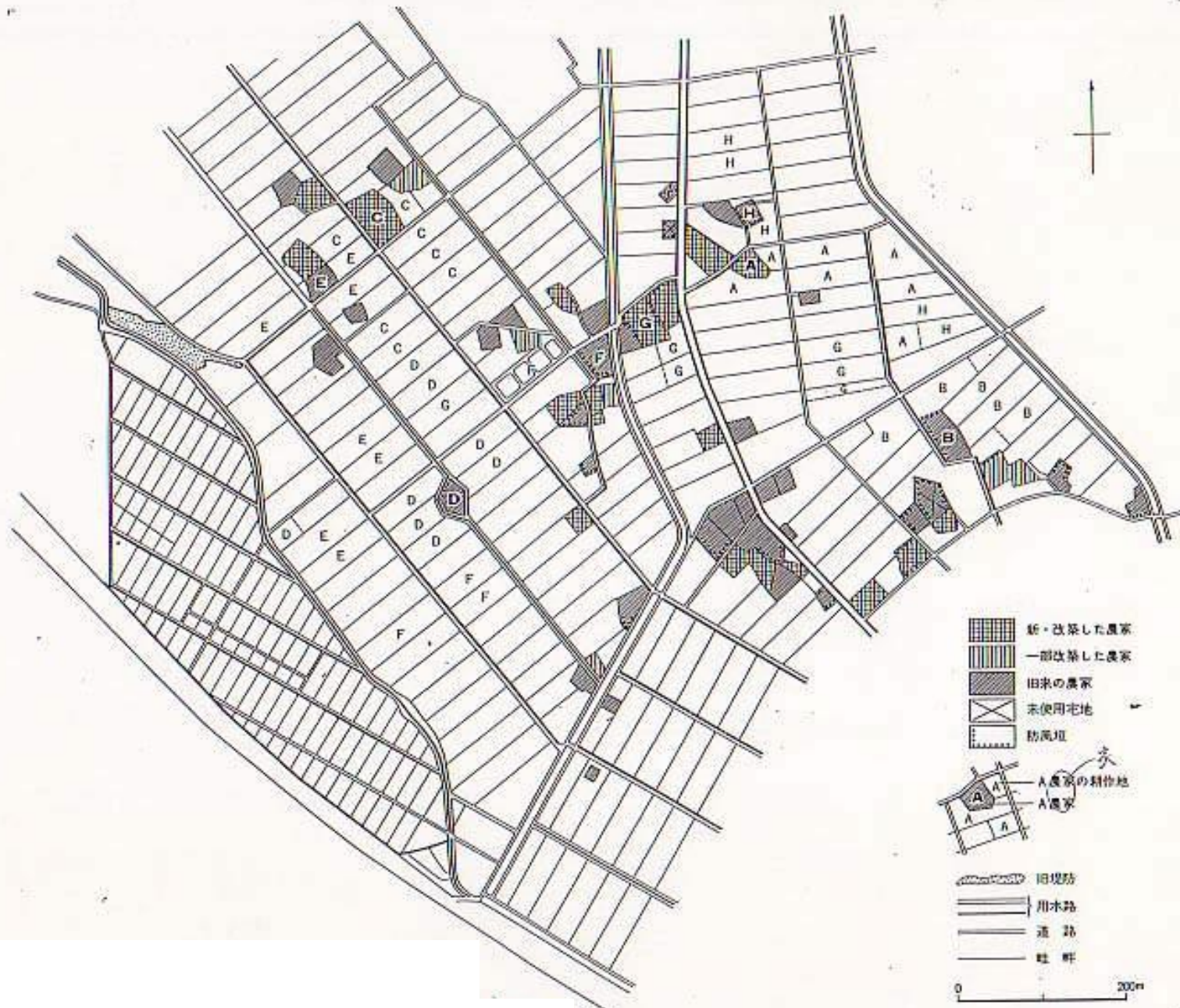
- 農業水利の調査をやっていた。→うまくいかない。
- 農民は当面の関心事である圃場整備を語りたがった。
- 高度経済成長期における農村変貌は、当時の農村地理学の課題としては、重要なものであることに気づいた。
- 圃場整備事業を契機とした農村変貌を課題とした。
- 農業水利で調査した4つの集落の中から、圃場整備の時期が早く、親切な人がいる集落を選んだ。
- 闇雲に農家で聞き取りをやるが、農家の変化をどのように整理するかわからなかった。
- ある農家の事例が、農村変貌の基本的なモデルとなると考え、研究を進めるための道筋をつくってくれた。



黒部川扇状地の旧河道と入善町浦山新地区の位置



入善町浦山新地区における圃場整備事業前の耕地と宅地(1964年)



入善町浦山新地区における圃場整備事業後の耕地と宅地(1974年)

3-2. 黒部川扇状地の農業・農村研究:農村変貌

稲作所要時間の変化

	1965年		1971年		
	新屋地区	富山県	新屋地区(平均)	新屋地区(最低)	富山県
	時間	時間	時間	時間	時間
種子予措	0.5 人 力	0.3	—	—	0.4
苗代一切	6.0 共同苗代	5.8	6.0 育苗室	4.0 育苗センター	4.7
本田耕起	11.5 人力, 耕耘機	18.6	5.1 人力, トラクター	2.1 人力, トラクター	11.1
本田整地	3.7 人 力	7.1	1.7 人 力	1.2 人力, 撒布機	3.9
元 肥	22.7 共同・人力	19.6	8.5 人力, 田植機	7.0 田植機	15.7
田 植	2.0 人 力	1.0	3.3 人 力	3.0 人 力	1.6
追 肥	58.0 人 力	18.1	22.3 人力, 除草剤	6.3 除草剤	9.1
除 草	60.0 人力(1日2回)	17.3	27.5 人力(1日1回)	15.0 人力(2日1回)	12.6
灌排水管理	4.5 撒布機	3.5	4.5 撒布機	2.0 撒布機	2.2
防 除	24.0 人力, 動力脱穀機	51.3	7.0 小型コンバイン	2.0 小型コンバイン	28.2
稲刈・稲こき	5.7 乾燥機, もみすり機	6.2	5.7 乾燥機, もみすり機	0.4 ライスセンター	5.3
もみ乾燥					
もみすり					
合 計	198.6	148.8	91.1	37.3	94.8

資料：新屋地区は新屋土地改良区調べ
富山県は富山農林水産年報(1969～70), (1972～73)

3-2. 黒部川扇状地の農業・農村研究:農村変貌

チューリップ球根栽培農家と酪農家の推移

第2表 浦山新地区におけるチューリップ栽培農家と酪農家の推移

農家番号	1972年 水稻栽培 面積	年										中止 年	中止の直接の動機
		1966	'67	'68	'69	'70	'71	'72	'73				
チューリップ栽培農家	①	190	18.7									1967	養豚拡大のため
	②	151	10.0	10.0								68	出稼に専念するため
	③	190	12.5	2.0								68	酪農拡大のため
	④	168	21.7	6.2	4.8	2.0						70	出稼に専念するため
	⑤	185	12.0	7.8	9.1	8.4	14.9	9.4	11.0			73	チューリップ栽培の担い手である母が老齢化
	※⑥	179	51.5	40.2	37.1	30.0	26.1	30.0	20.0			73	世帯主夫婦とも勤め始める
	⑦	164	7.5	11.0	12.0	11.0	15.0	19.5	10.0	10.0		74	世帯主建設会社へ就職
	⑧	144	5.0	10.0	9.0	6.6	15.0	19.5	18.0	15.0		74	世帯主老齢化、後継者すでに会社勤め
	⑨	227	30.5	40.2	37.1	29.9	2.0	47.0	26.9	54.5			
	⑩	175	15.0	14.1	13.1	13.0	13.0	13.5	13.5	14.0			
	⑪	133	12.0	7.8	9.1	8.4	14.9	19.8	22.3	23.5			
	⑫	248	7.0	6.0	6.0	7.5	10.0	20.0	27.0	30.0			
	⑬	98	9.0	6.0	10.0	12.0	13.2	17.0	18.0	20.0			
酪農家	※⑥	179	5(2)	3(2)	1(1)							1968	チューリップ栽培に専念するため
	⑭	89	3(2)	3(1)	3(1)	1(1)						69	世帯主建設会社へ就職
	⑮	110	1(1)	2(2)	1(1)	1(1)						69	世帯主建設会社へ就職
	⑯	161	2(2)	2(2)	4(1)	5(1)	8(5)					70	息子夫婦県外へ転出
	⑰	116	4(3)	5(2)	4(1)	4(2)	5(1)	5(1)				71	世帯主が新和工業へ就職
	⑱	137	4(3)	5(1)	4(2)	4(1)	6(3)	5(2)				71	世帯主老齢化、後継者すでに会社勤め
	⑲	127	3(2)	3(0)	3(0)	4(1)	5(2)	3(1)	2(0)			72	世帯主老齢化、後継者すでに会社勤め
	⑳	171	5(3)	3(1)	5(2)	5(2)	5(2)	6(2)	3(2)			72	世帯主黒部市内の鉄工所へ就職
	㉑	190	8(4)	10(3)	10(2)	12(4)	13(4)	12(2)	12(2)	8(0)		73	酪農の担い手である母が病気
	㉒	119	8(4)	9(4)	7(1)	9(3)	9(3)	12(5)	9(3)	5(1)		73	世帯主黒部市内の鉄工所へ就職
	㉓	107	2(2)	2(1)	3(1)	4(2)	4(1)	7(3)	7(4)	6(2)		74	世帯主老齢化、後継者すでに役所勤め
	㉔	226	8(5)	9(4)	9(3)	9(5)	8(5)	7(4)	7(3)	11(5)			
	㉕	237	7(5)	8(4)	9(4)	10(3)	11(2)	12(4)	13(6)	9(1)			
	③	190	10(4)	12(4)	13(4)	15(5)	16(4)	17(5)	19(4)	18(5)			
	㉖	91	13(6)	14(6)	13(3)	16(5)	14(5)	12(2)	14(7)	10(4)			
	⑬	98	6(3)	8(3)	8(4)	5(2)	5(1)	6(2)	6(2)	7(1)			
	㉗	141	6(3)	8(3)	10(3)	9(4)	9(2)	10(3)	13(6)	10(1)			
㉘	235				1(1)	5(5)	8(1)	10(3)	11(2)			長男高校を卒業して新たに開始	

資料：チューリップ栽培面積は富山県花卉球根組合作付台帳、水稻栽培面積は入善町農協新屋文所調べ、

乳牛頭数は入善町酪農協調べ、その他は聞き取りによる。

() は乳牛全頭数のうち育成牛の数

※は第2図、3図、6図、7図に示したA農家

3-2. 黒部川扇状地の農業・農村研究:農村変貌

農外就業の変化

1967年

	男 子						女 子						合計
	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	小計	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	小計	
会 社 員	16	9		1		26	7	1	2			10	36
公務・団体職員	9	2	5	3	1	20	2		1			3	23
日 稼	1	5	13	10		29		2	2	4		8	37
出 稼	3	4	14	8	2	31			1			1	32
そ の 他	1	2	3			6	1				1	2	8
合 計	30	22	35	22	3	112	10	3	6	4	1	24	136

1972年

	男 子						女 子						合計
	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	小計	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	小計	
会 社 員	22	17	7	1		47	8	10	8			26	73
公務・団体職員	9	7	3	3	1	23	6	2	2			10	33
日 稼	1	5	5	12	5	28		7	9	8	2	26	54
出 稼	1	6	11	9	4	31			2			2	33
そ の 他	6		1			7	5				1	6	13
合 計	39	35	27	25	10	136	19	19	21	8	3	70	206

資料：入善町税務課資料

3-2. 黒部川扇状地の農業・農村 研究:農村変貌

農家の就業構造 の変化

1967年

就業の組み合わせ	戸数	経営規模 (ha)				
		～0.5	～1.0	～1.5	～2.0	2.0～
農業 (稲)(稲+乳牛)(稲+タバコ) (稲+乳牛+チューリップ)	16	3	4	6	3	
農業+県外出稼	18	4	4	8	2	
農業+県外出稼+日稼	4		2	1	1	
農業+日稼	15	1	4	4	4	2
農業+県外出稼+会社員	8	1	3	2	2	
農業+日稼+会社員	12		3	8	1	
農業+日稼+公務・団体職員	5		3	1	1	
農業+会社員	14	7	4		3	
農業+公務・団体職員	4	1		3		
農業+大工	3	2		1		
公務・団体職員	3					
その他	4					
合 計	106	19	27	34	17	2

1972年

就業の組み合わせ	戸数	経営規模 (ha)				
		～0.5	～1.0	～1.5	～2.0	2.0～
農業	1				1	
農業+県外出稼	5	2	1		1	1
農業+県外出稼+日稼	7	3	1	1	2	
農業+日稼	11	3	1	4	1	2
農業+県外出稼+会社員	9		2	5	2	
農業+県外出稼+公務・団体職員	2				2	
農業+日稼+会社員	15		3	6	5	1
農業+日稼+公務・団体職員	4	2	1	1		
農業+県外出稼+日稼+会社員	3	1	1	1		
農業+日稼+会社員+公務・団体職員	4	1	1		2	
農業+会社員	20	3	9	3	5	
農業+公務・団体職員	7	3		1	2	1
農業+会社員+公務・団体職員	4		1	1	2	
農業+大工	5	1	1	2	1	
公務・団体職員	2					
その他	6					
合 計	105	19	22	25	26	5

資料：入善町税務課資料，聞き取りによる

3-2. 黒部川扇状地の農業・農村研究:農村変貌(まとめ)

- 圃場整備事業が始まる以前(1965年以前)
 - 農業重視(稲作・酪農・球根)＋日雇・出稼
 - 伝統的景観、伝統的生活様式
- 圃場整備事業の完了(1971年以降)
 - 稲作＋恒常的通勤
 - 近代的景観、生活様式の変化
- 農家の就業において、農業が単純化する一方、他産業就業が組み込まれ、全体として複雑な就業構造→「小農複合経営」

3. 黒部川扇状地の農業・農村研究

3-3. 農村調査の手順

- 闇雲に農家で聞き取りをやるが、農家の変化をどのように整理するかわからなかった。
- ある農家の事例が、農村変貌の基本的なモデルとなり、研究を進めるための道筋となった。長年にわたって区長を務めたA氏から、過去20年余りの自家農業について詳しく説明してもらった。
- これによって農村変貌の地域イメージをつかむことができた。



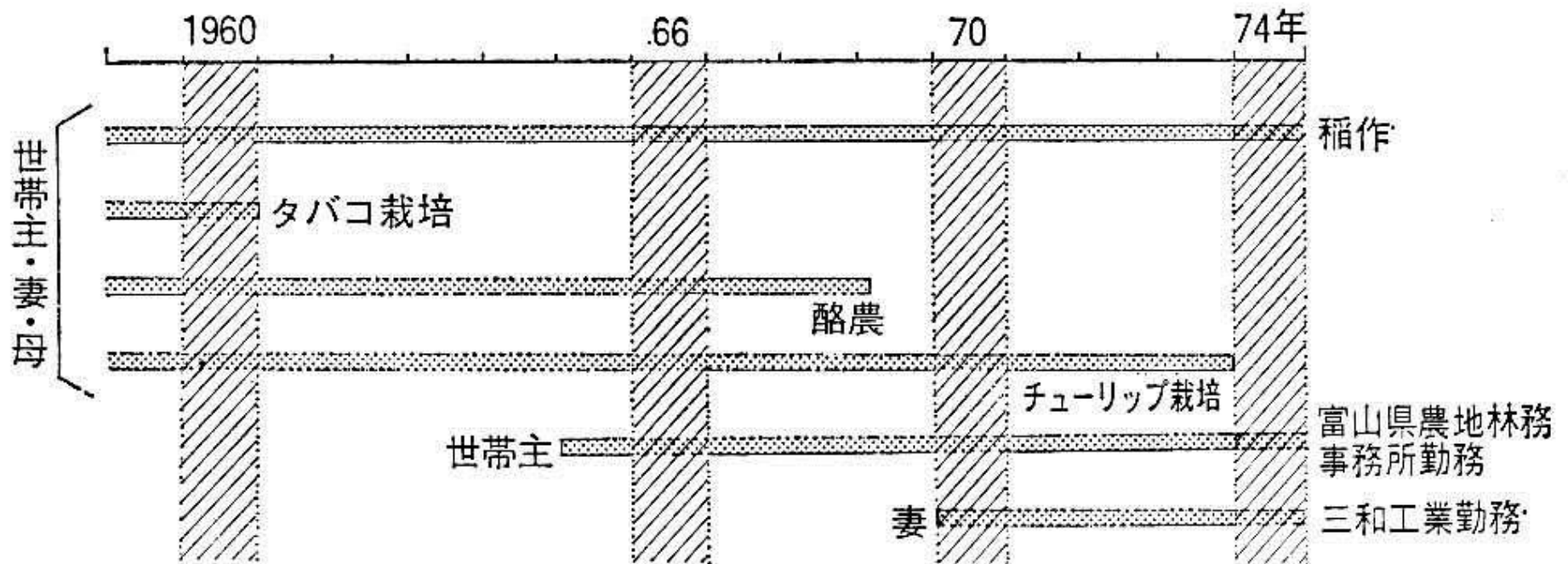
農村変貌のイメージをつくってくれた人(2002年8月)



2012年9月に再調査

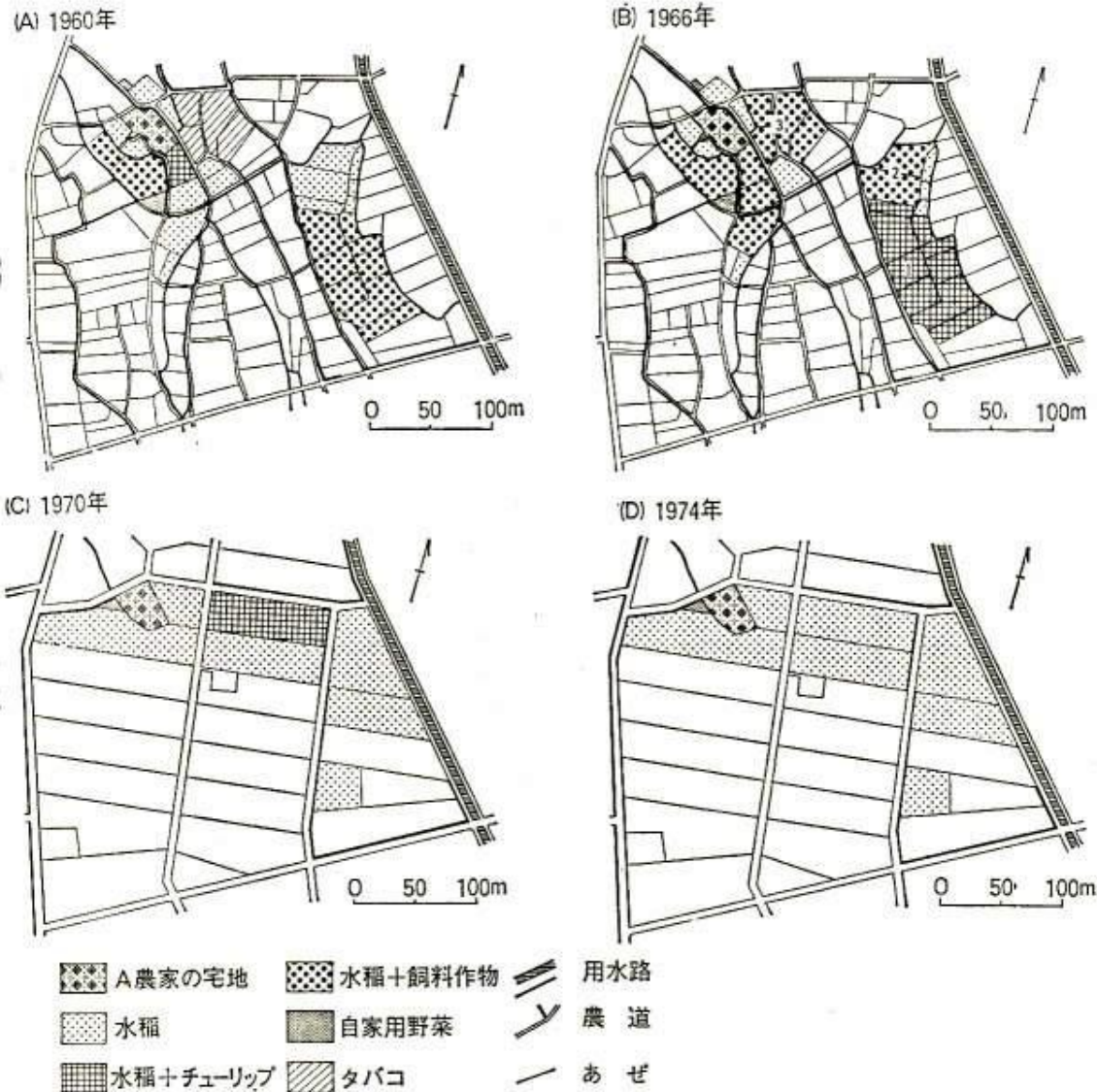
3-2. 黒部川扇状地の農業・農村研究:農村変貌

A農家の就業変化



3-2. 黒部川扇状地の農業・農村研究:農村変貌

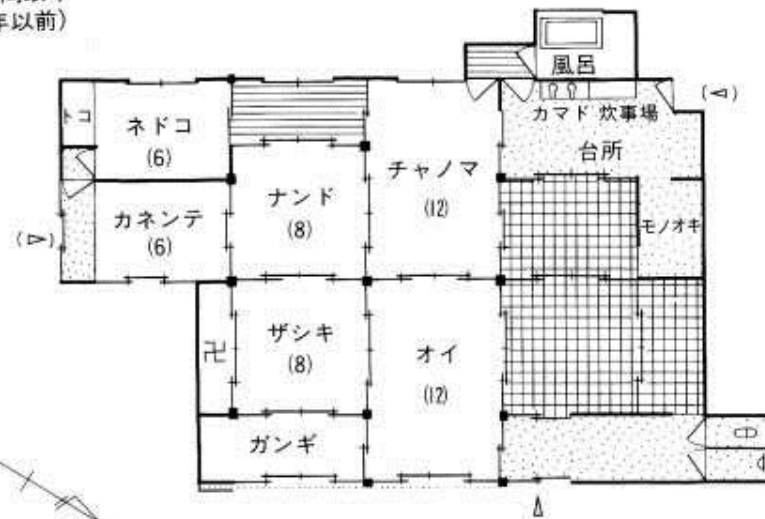
A家の土地利用変化



3-2. 黒部川扇状地の農業 ・農村研究:農村変貌

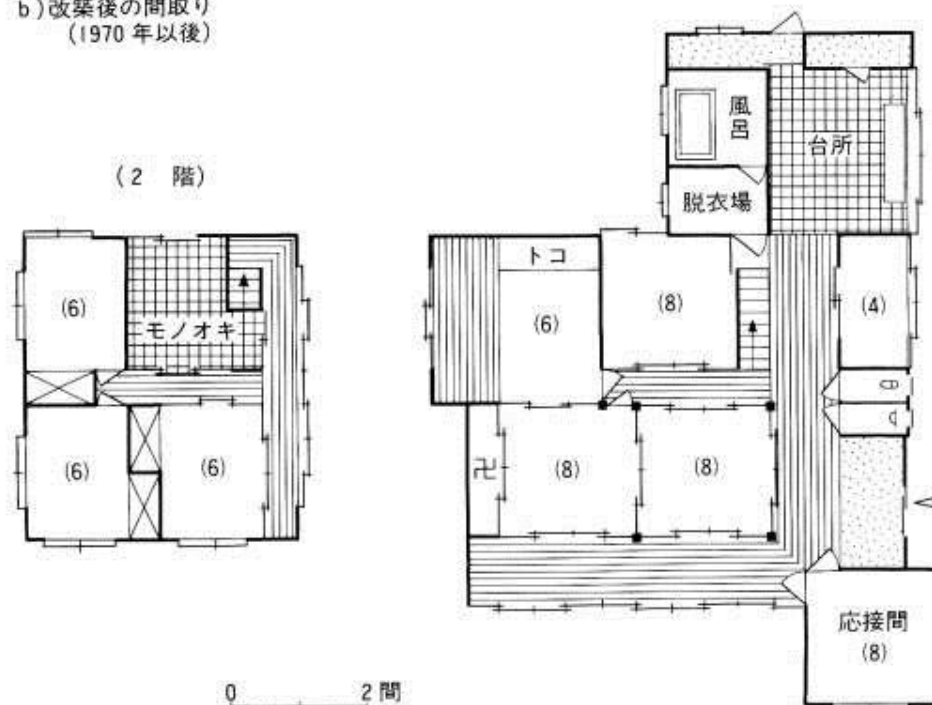
A家の間取りの 変化

a) 改築前の間取り
(1970 年以前)



(1 階)

b) 改築後の間取り
(1970 年以後)



(2 階)

0 2 間

3-3. 黒部川扇状地の農業・農村研究:農村調査の手順

イメージを実証するための集落・地域データの収集(1)

- 小地域の実証的研究では、イメージづくりが重要である。
- モデルとなった1つの農家で明らかになった景観と就業のデータについて、集落あるいは黒部川扇状地全体のものを集めることにした。すなわち、イメージを実証することにした。
- 稲作の省力化(土地改良区)、チューリップ球根(球根農協)と酪農(酪農農協)の変化のデータを収集する。
- 就業構造の調査、1967年は役場の資料、それ以降は聞き取り調査による。データの整理と図化(Cloutのまねをする)。
- 世帯単位の就業の組み合わせとその変化という形で、農村変貌を記述することにした。

イメージを実証するための集落・地域データの収集(2)

- 農外就業先(工場のリスト)のデータを役場で収集した。
- 重要な農外就業先である電子部品工場や縫製工場、自動車部品などの工場で聞き取りを行った。電子部品工場では、勤務状況などの非常によいデータが得られた。
- 土地改良区の地図を転写、空中写真を購入し、過去の景観復元と現状を現地調査をした。
- それを証拠だてる景観写真を撮影した。
- 黒部川扇状地農村の事例が他の地域と比較してどのような特徴があるかを明らかにした。
- 既存のデータを加えることにより農村の変貌過程を提示し、その意義を従来の研究を用いて説明した。

**1969年8月入善町
新屋土地改良区撮影**



1970年3月入善町新屋土地改良区撮影



1975年4月撮影



黒部川扇状地における景観変化

3-3. 黒部川扇状地の農業・農村研究:農村調査の手順

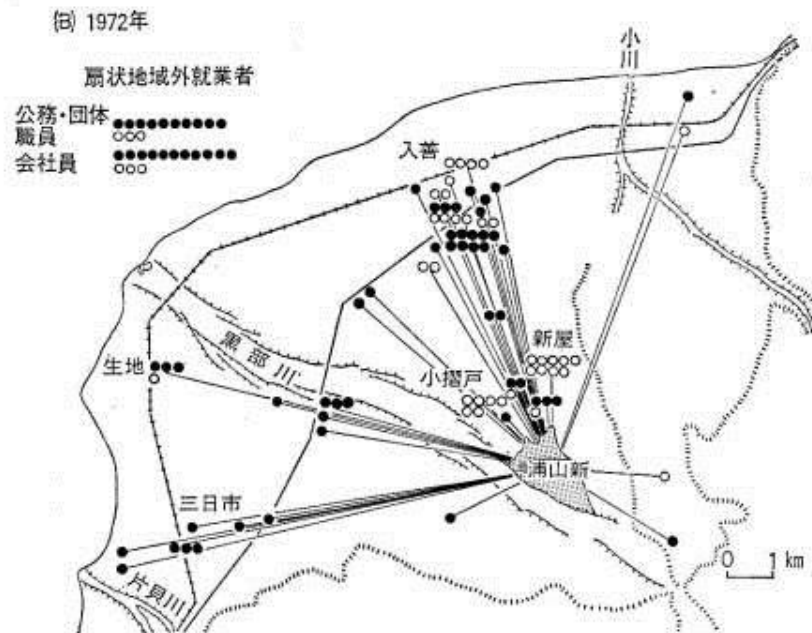
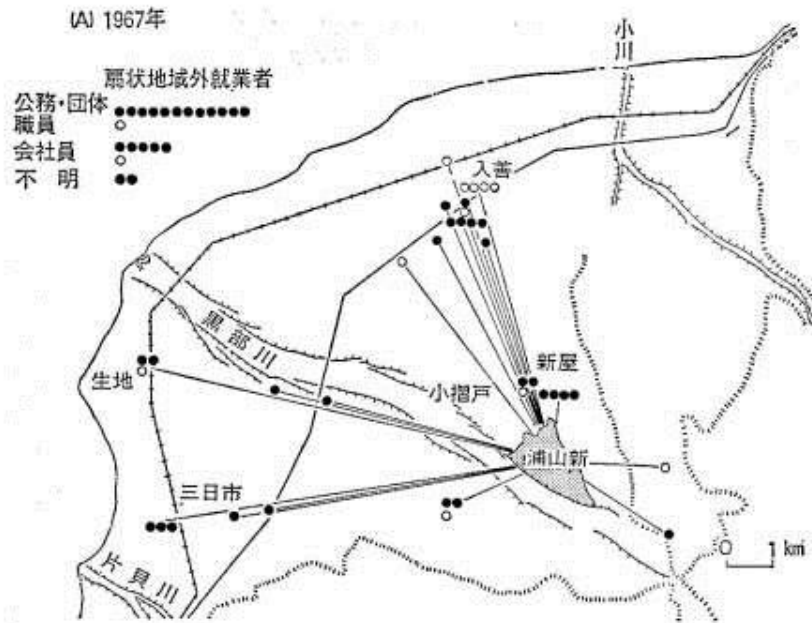
入善町浦山新地区の就業調査

・1967年度は役場の資料、・1972年以降は聞き取りによる

浦山新在住者就業状況調査、平成6年10月現在。

④	代	60.	農+土建	専	50.	黒部市	長男	20.	黒部市	母	80.	無						
主		40.	国家公務員(建設省)	専	40.	新庄	長男	20.	町役場	母	70.	農						
主		50.	JAX善十農	専	40.	町双	父	70.	農									
主		40.	佐官業+農	専	40.	YKK(黒部市)	長男	20.	町双	長女	10.	アイシン新和	父	70.	無	母	70.	農
主		40.	YKK(黒部市)	専	40.	YKK(黒部市)	長男	20.	町双(新山)	長女	20.	町役場	母	70.	無			
主		40.	佐官業	専	40.	町双	長男	20.	黒部市	長女	20.	JR車双	父	70.	無	母	70.	無
主		40.	金工部	専	40.	入善	長男	20.	JAX善町	父	80.	無	母	80.	無			
主		30.	アイシン新和	専	30.	入善	母	60.	黒部市	土建(中工)								
主		60.	J江=イ他	専	50.	町双	次男	20.	黒部市	雄峰高校教師	母	80.	無					
主		50.	地方公務員(県庁)	専	40.	町双	父	70.	農	母	70.	農						
主		50.	土石(高野場)	専	40.	新庄	長男	20.	町双(善木)	白鳥プラスチック	次男	20.	白鳥プラスチック					

3-2. 黒部川扇状地の農業・農村研究: 農村変貌 浦山新地区 の恒常的通勤先 (Cloutのまね)



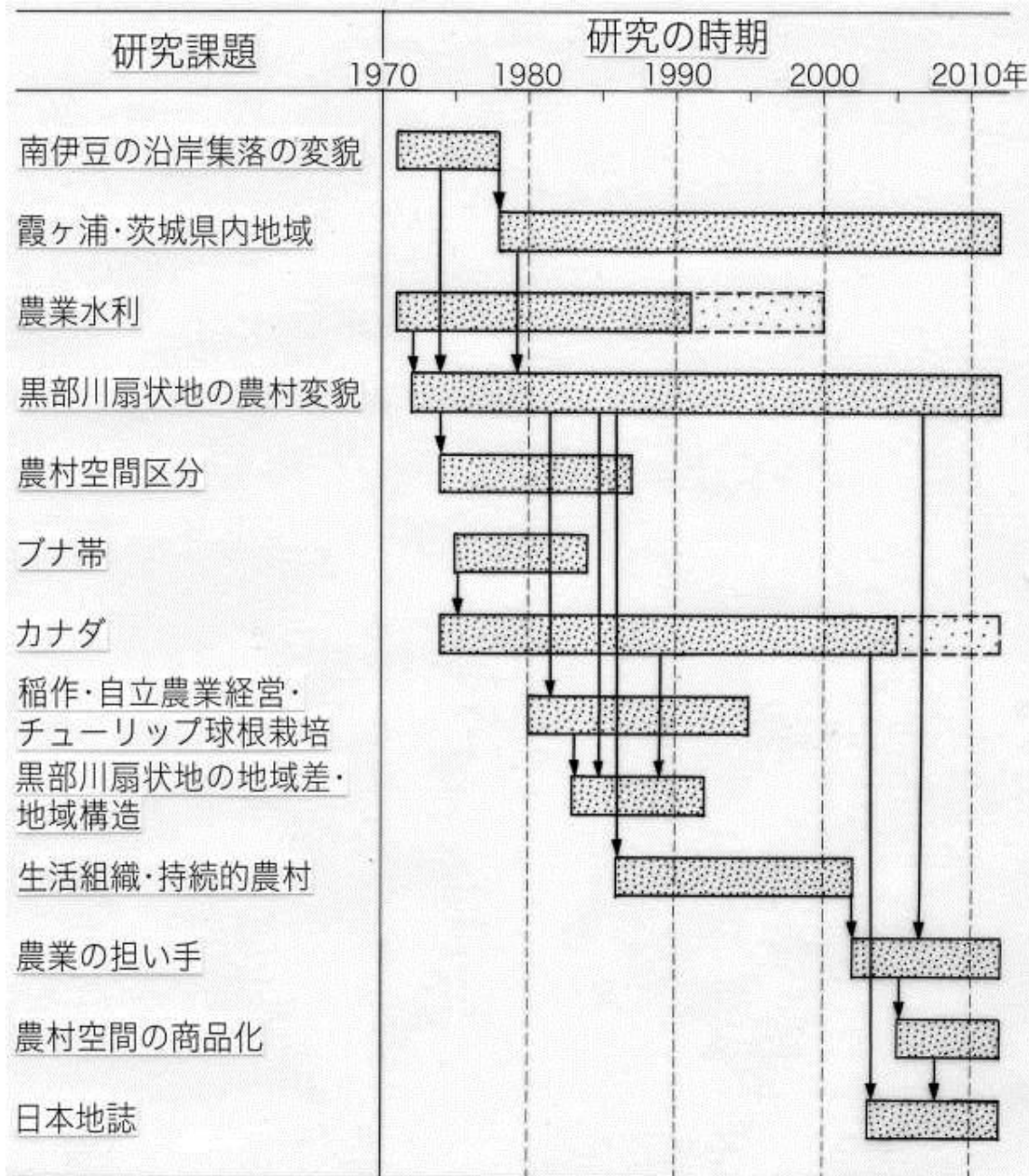
●男子就業者(1人) ——— 堤防 ——— 北陸本線
○女子就業者(1人) 山麓線・段丘崖 ——— 国道八号線



圃場整備事業後に立地した農村工場(1983年7月)

4.研究の継続と新しい展開

1960年代から1970年代までの「黒部川扇状地の変貌」の研究成果から、多くの新しい研究課題が生まれ、研究が展開していった。



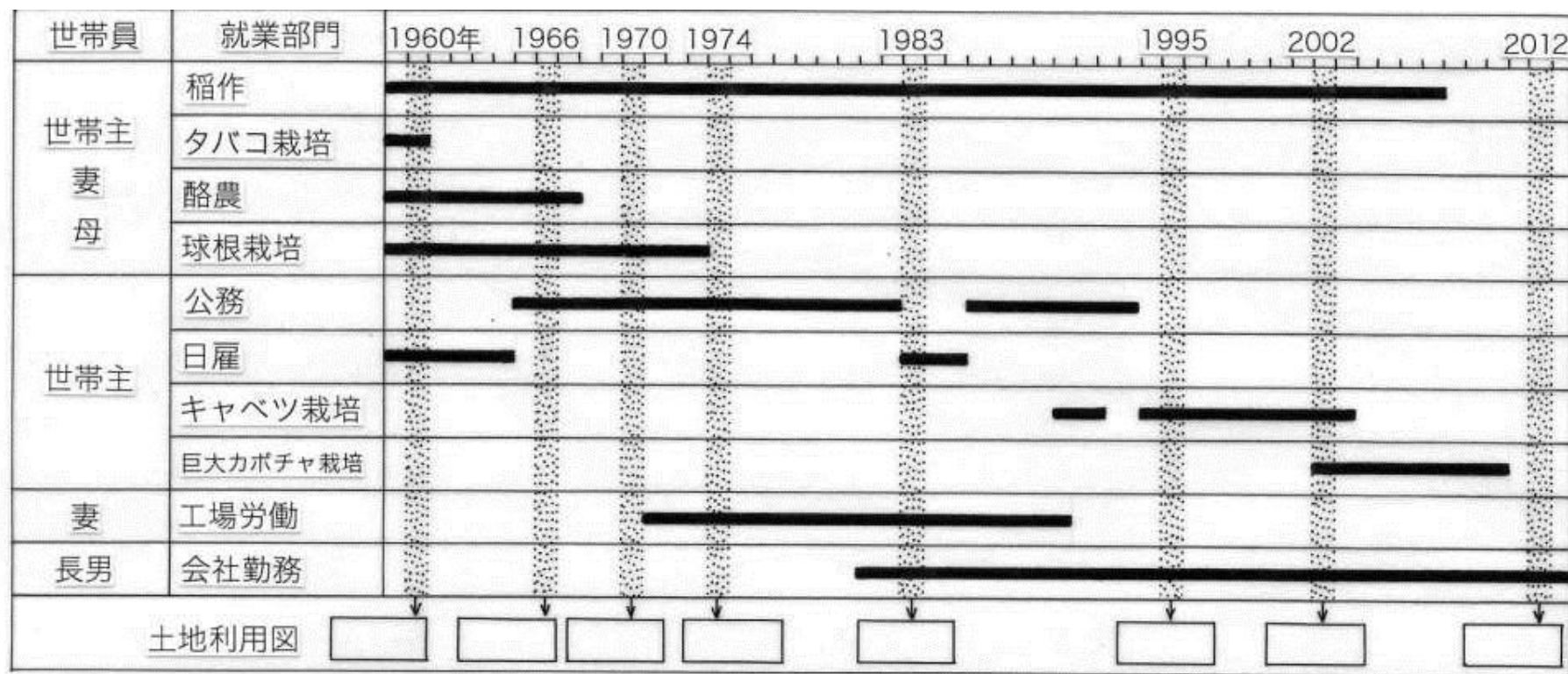
黒部川扇状地農村の地理学研究とその後の展開

4. 研究の継続と新しい展開

- 4-1. 黒部川扇状地のさらなる農村変貌
- 4-2. 日本の農村空間区分(山本正三先生のアイデア)
- 4-3. ブナ帯研究
- 4-4. 黒部川扇状地の水稻作・チューリップ球根・自立
農業経営
- 4-5. 黒部川扇状地の地域差・地域構造
- 4-6. 公民館・生活組織・持続的農村
- 4-7. 農業の担い手(集落営農・大規模借地経営)
- 4-8. 農村空間の商品化(フィールドミュージアム)
- 4-9. カナダ研究
- 4-10. 日本地誌

4-1. 研究の継続と新しい展開：黒部川扇状地のさらなる変貌

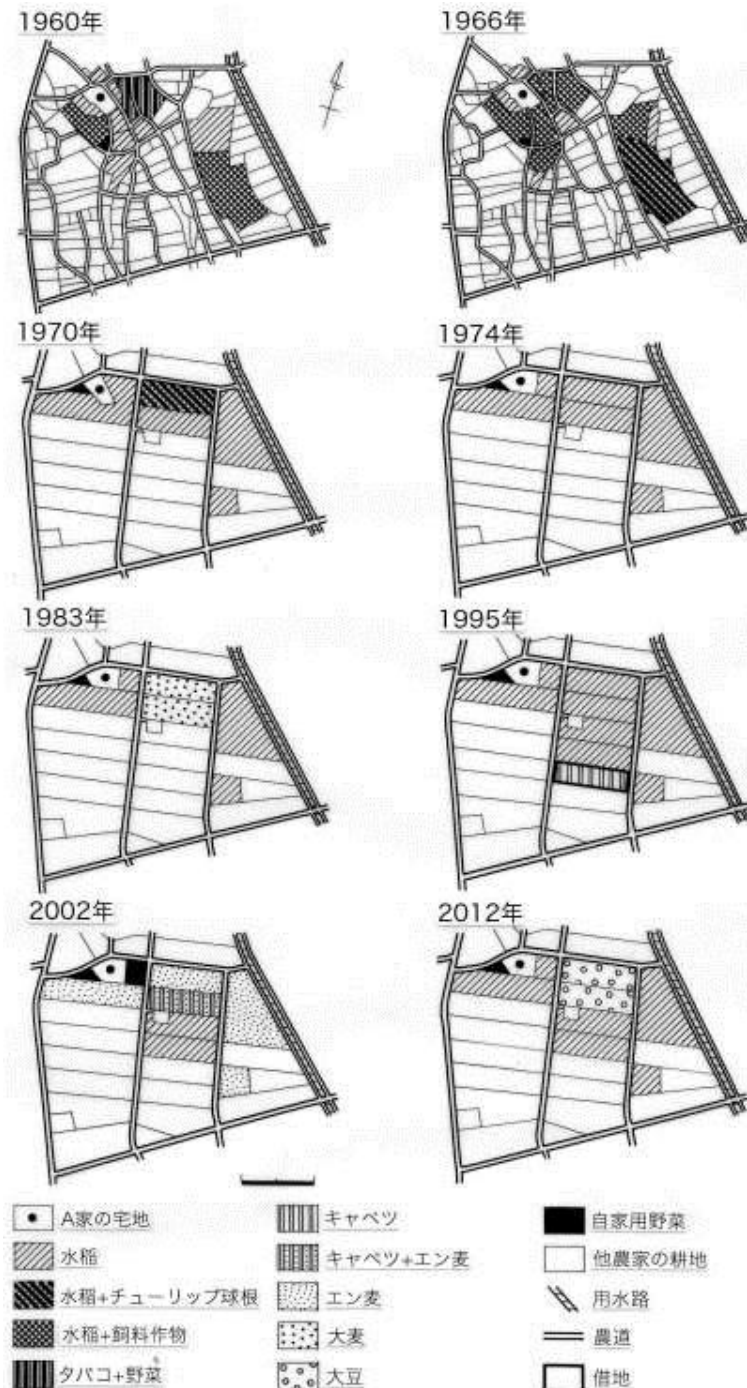
A家の就業変化



富山県入善町浦山新地区における A 農家の就業変化

4-1.研究の継続と新しい展開:黒部川扇状地のさらなる変貌

A家の土地利用変化



富山県入善町浦山新地区におけるA農家の耕地利用変化

4-1. 研究の継続と新しい展開：黒部川扇状地のさらなる変貌

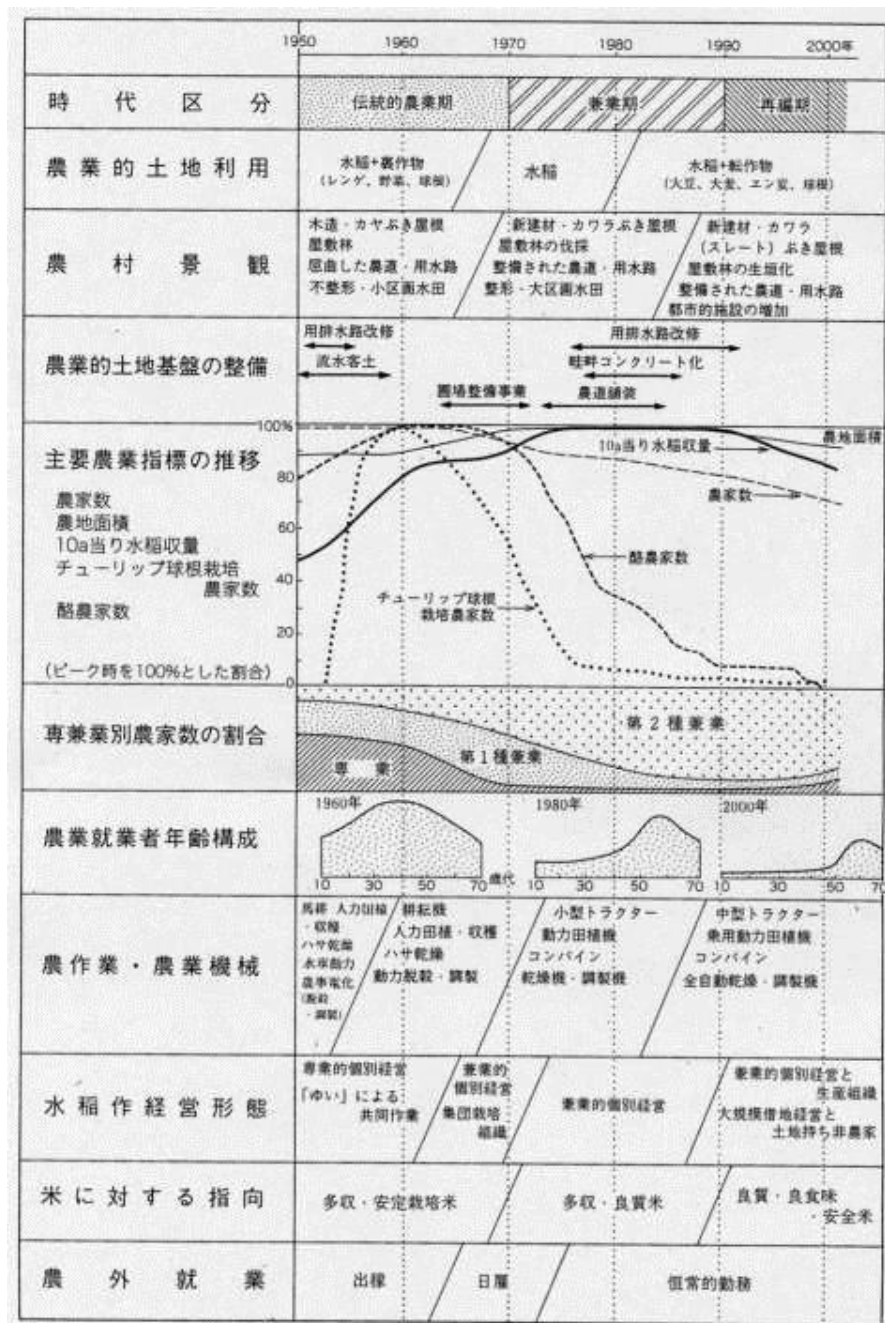
入善町浦山新地区における 就業構造の変化

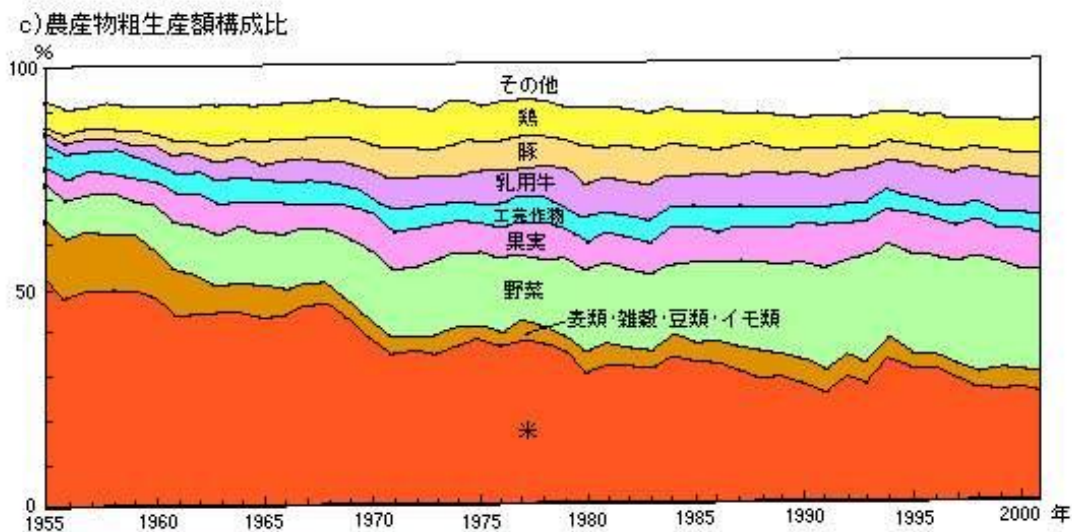
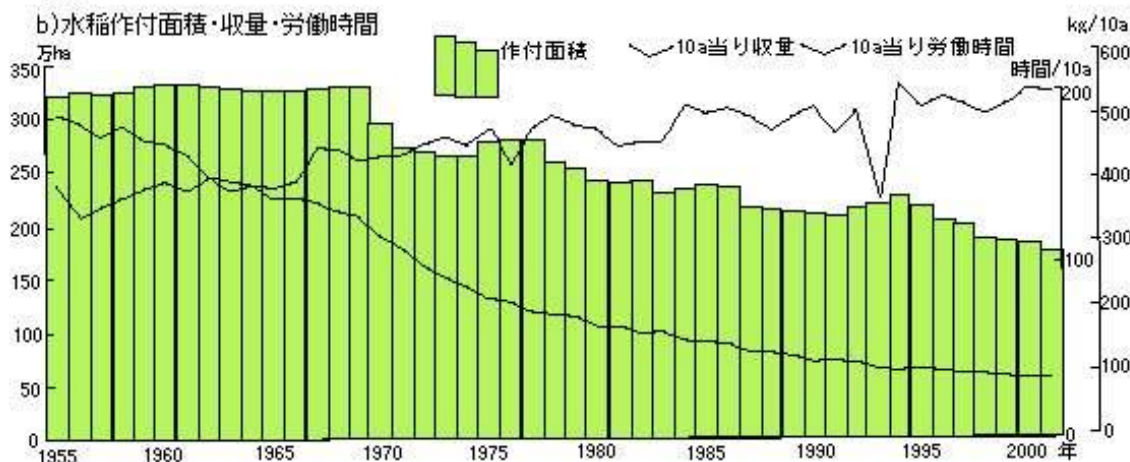
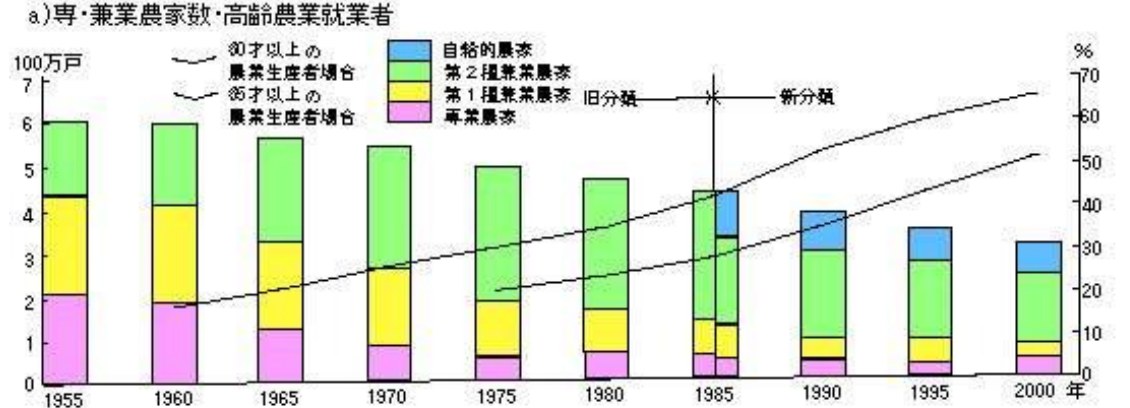
(単位：戸 (%))

就業の組み合わせ		1967年	1972年	1983年	1994年	2002年
農業中心	農業	16(15.1)	1(1.0)	5(4.6)	6(5.7)	5(4.7)
	農業＋出稼(日雇)	37(34.9)	23(21.9)	9(8.3)	6(5.7)	4(3.7)
		53(50.0)	24(22.9)	14(13.0)	12(11.3)	9(8.4)
兼業中心	農業＋出稼(日雇)＋会社勤務(公務・団体勤務)	25(23.6)	33(31.4)	24(22.2)	26(24.5)	16(15.0)
	農業＋出稼(日雇)＋会社勤務＋公務(自営)	0(0)	4(3.8)	7(6.5)	6(5.7)	5(4.7)
	農業＋会社勤務(公務，自営)	21(19.8)	36(34.3)	49(45.4)	40(37.7)	48(44.9)
		46(43.4)	76(69.5)	80(74.0)	72(67.9)	69(64.4)
非農家	会社勤務，公務，自営，その他	7(6.6)	8(7.6)	14(13.0)	22(20.8)	29(27.1)
合 計		106(100)	105(100)	108(100)	106(100)	107(100)

(聞き取りにより作成)

4-1.研究の継続と 新しい展開：黒部川 扇状地のさらなる 変貌 黒部川扇状地 における農村 変貌の過程





4-1.研究の継続
と新しい展開:黒
部川扇状地のさ
らなる変貌

日本におけ
る農業の変
化過程



黒部川扇状地巡検(2012年9月)



入善町浦山新地区の大豆栽培(2012年9月)

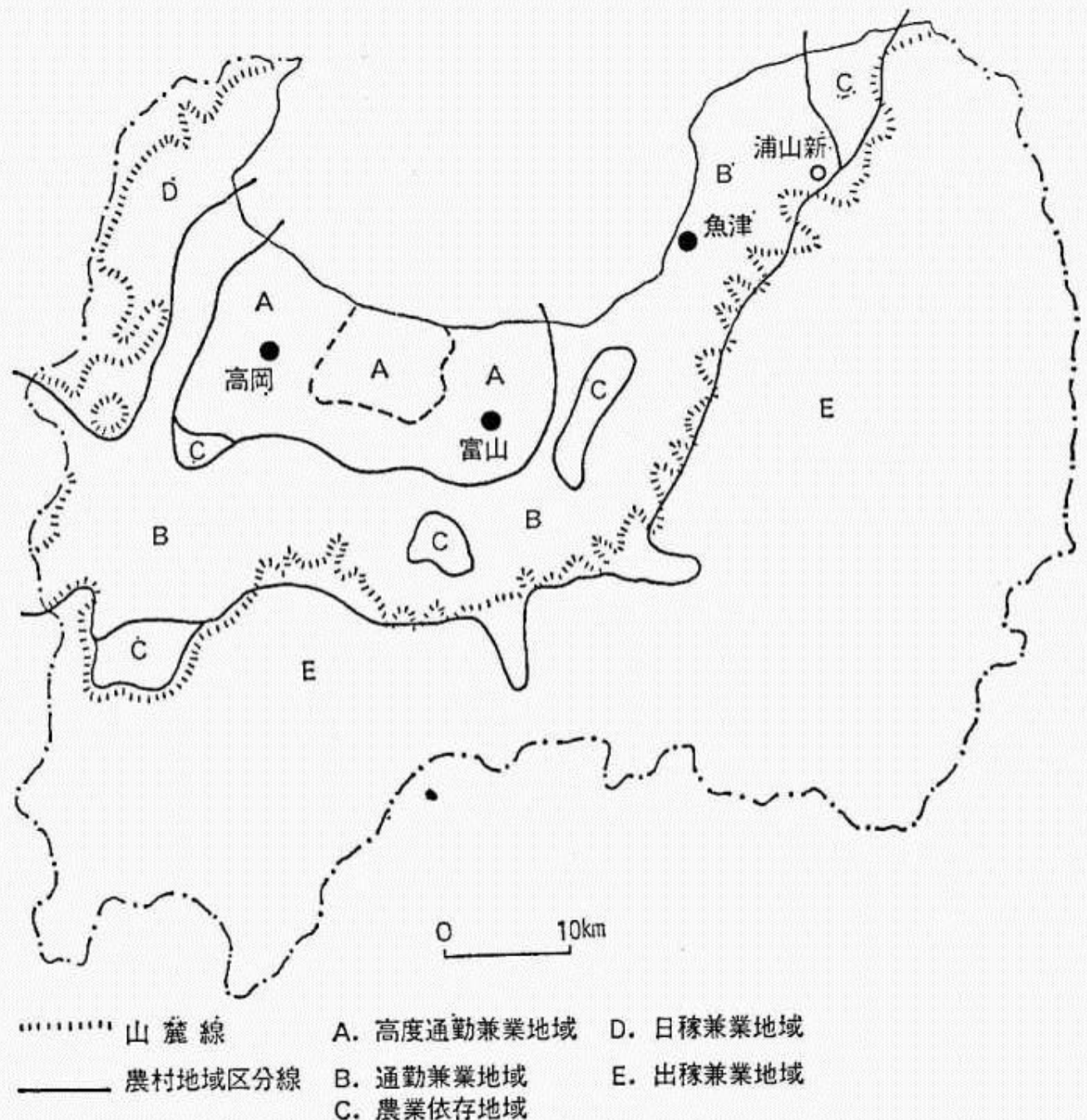


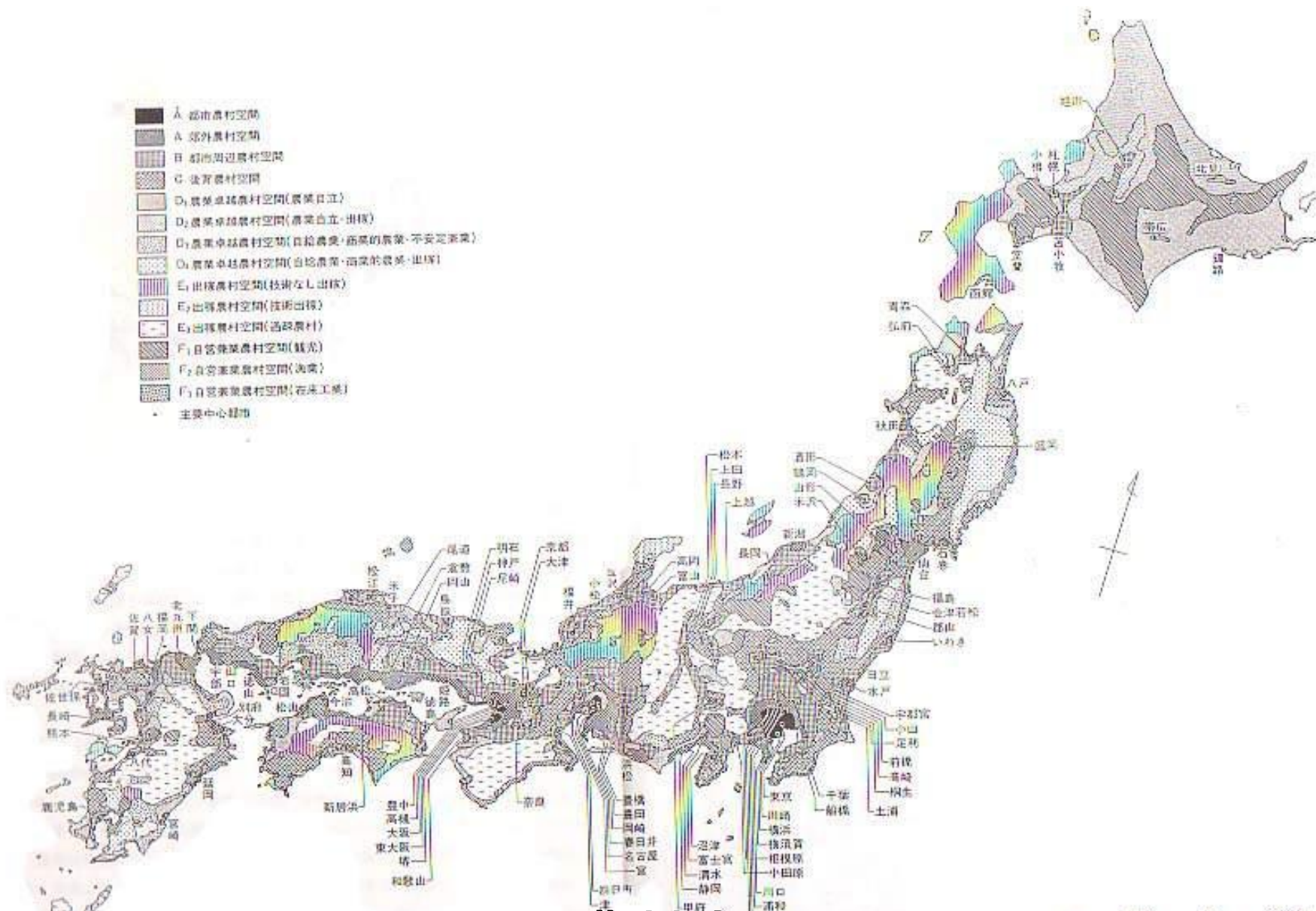
入善町浦山新地区のソバ栽培(2012年9月)



入善町浦山新地区の大規模借地農による収穫(2012年9月)

4-2. 研究の継続と新しい展開：日本の農村空間 富山県の農村空間区分



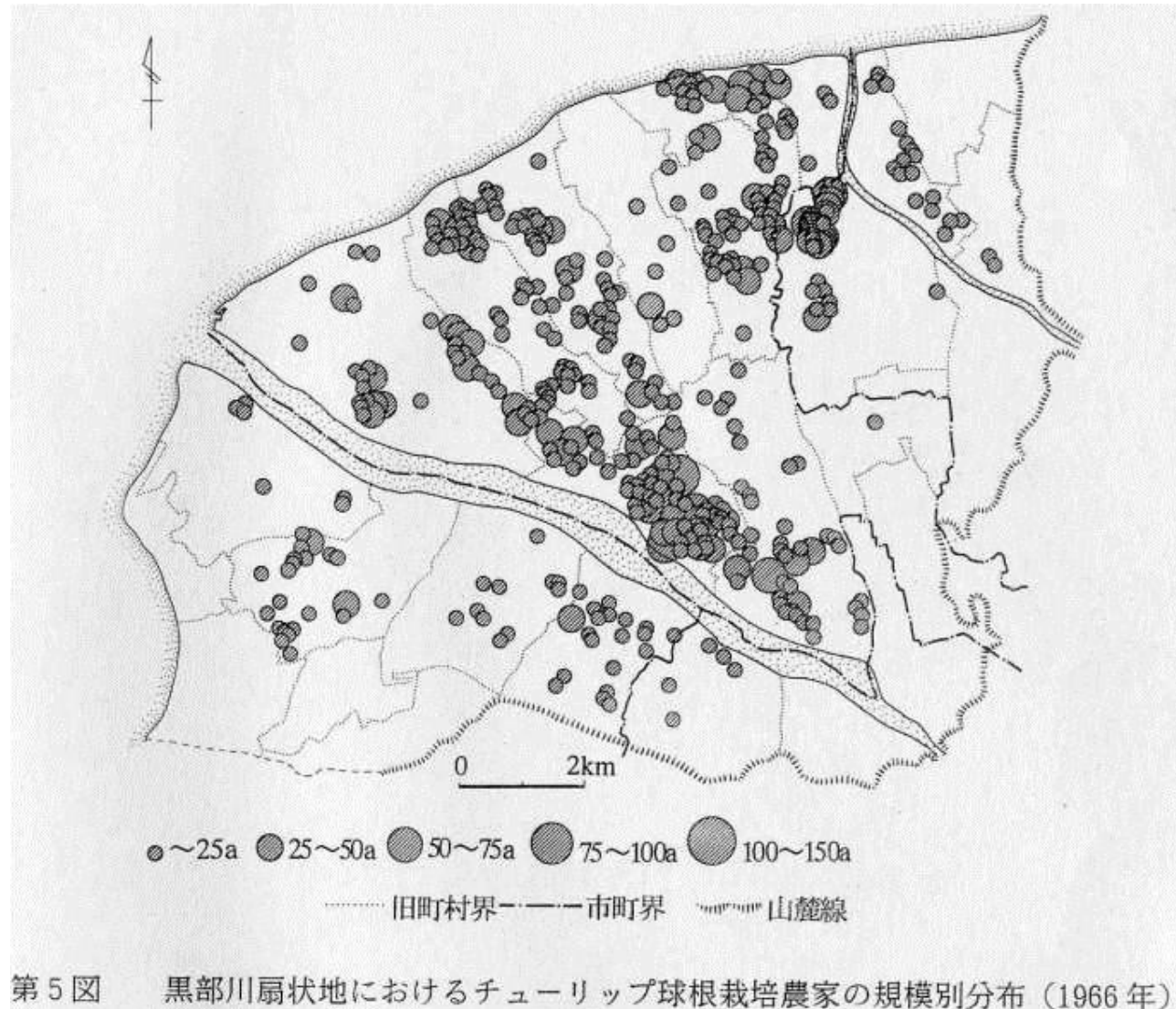


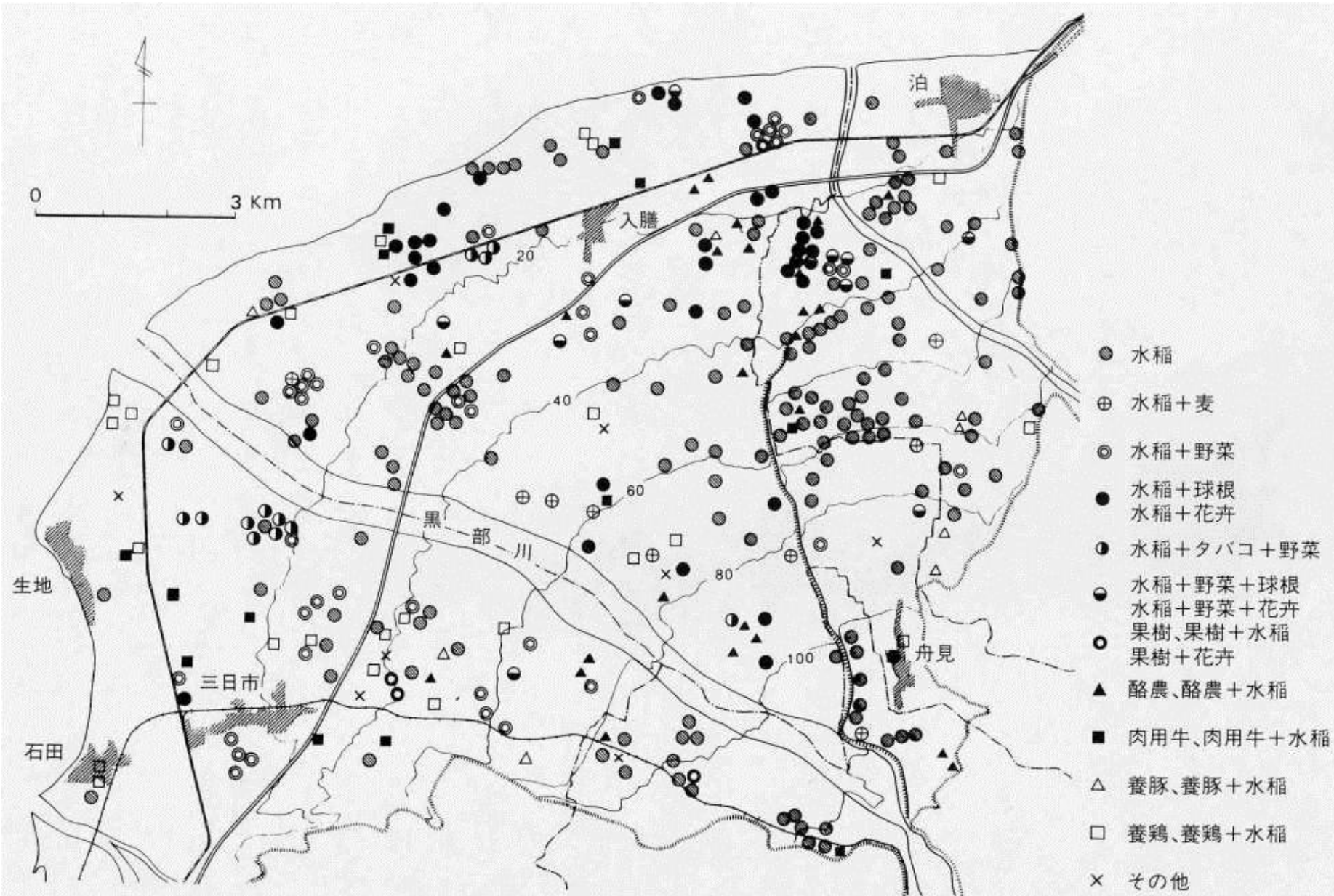
日本の農村空間区分

4-3.研究の継続と新しい展開:
ブナ帯研究・奥入瀬溪谷(1977年7月)



4-4. 研究の継続と新しい展開： 水稲作・チューリップ球根栽培・自立経営農家

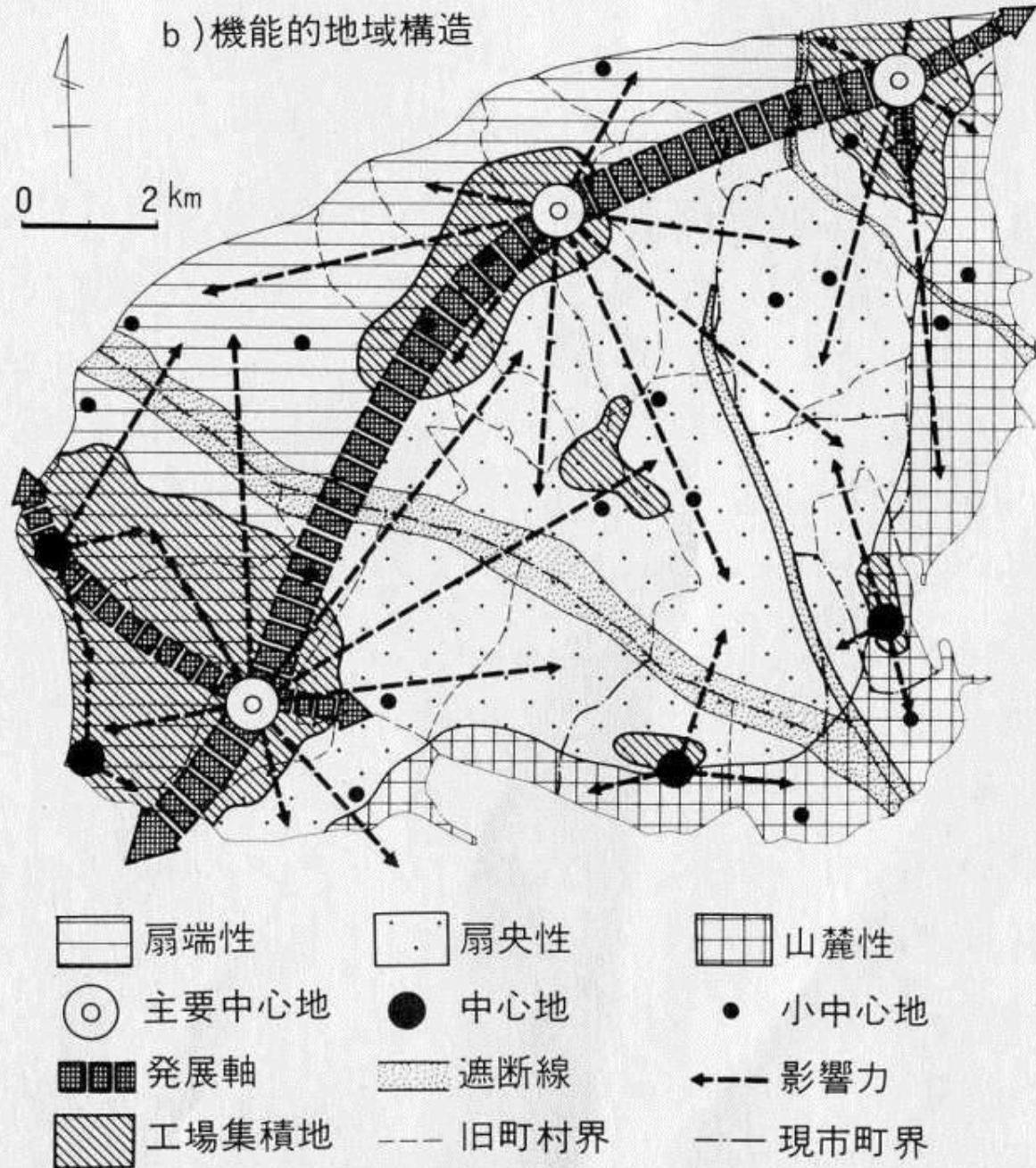




第33図 黒部川扇状地における自立経営の分布

4-5.研究の継続 と新しい展開: 地域差・地域構造

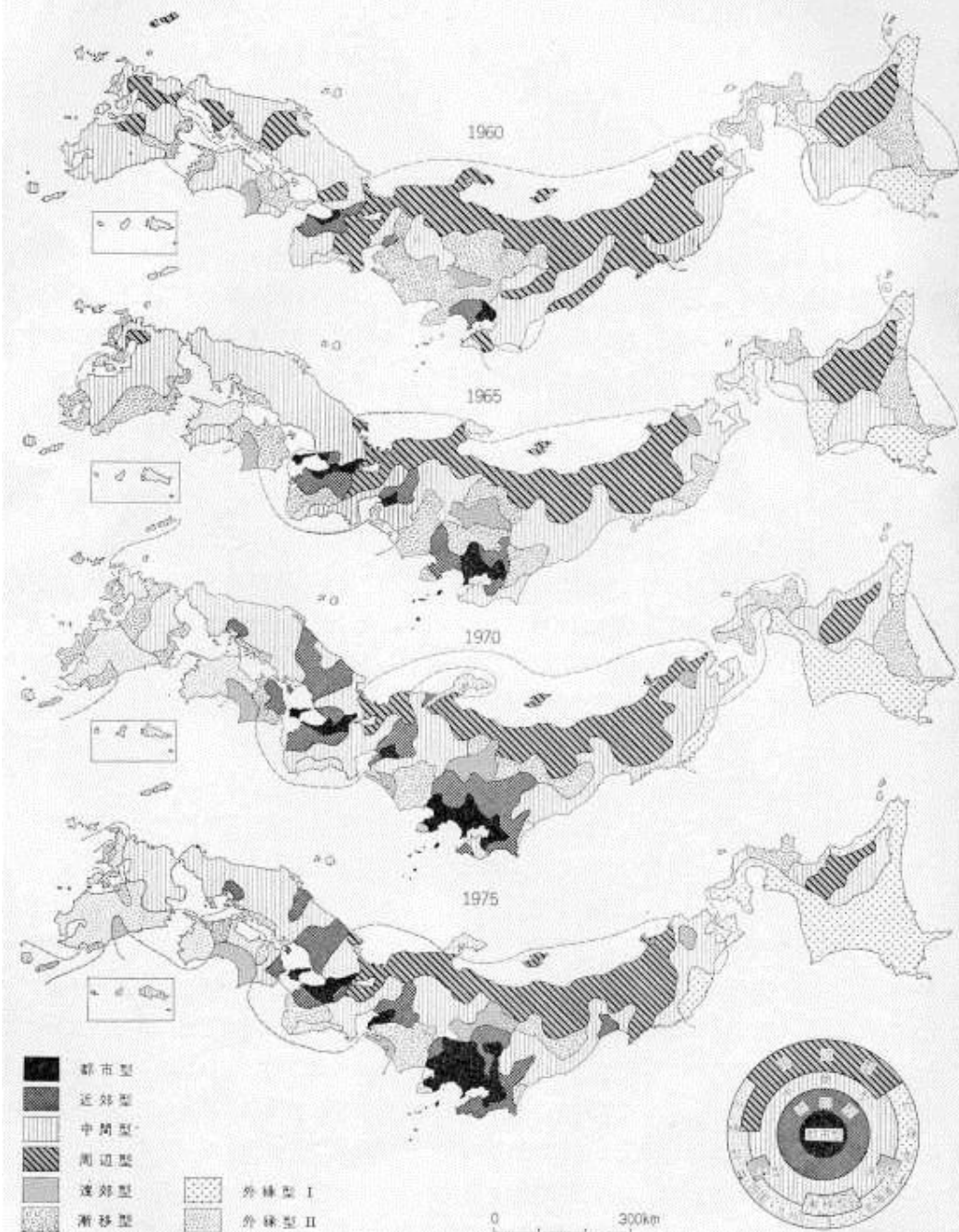
黒部川扇状地 の地域構造



第56図 黒部川扇状地の地域構造 (地域の相互関係) 54

4-5.研究の継続と新しい展開:地域差・地域構造

農業所得型からみた日本の地域構造



第12図 農業所得型の地域的基本構造 (1960～1975年)

4-6.研究の継続 と新しい展開:公民館・生活組織・ 持続的農村

黒部川扇状 地の公民館 の分布





入善町浦山新地区公民館(2012年9月)

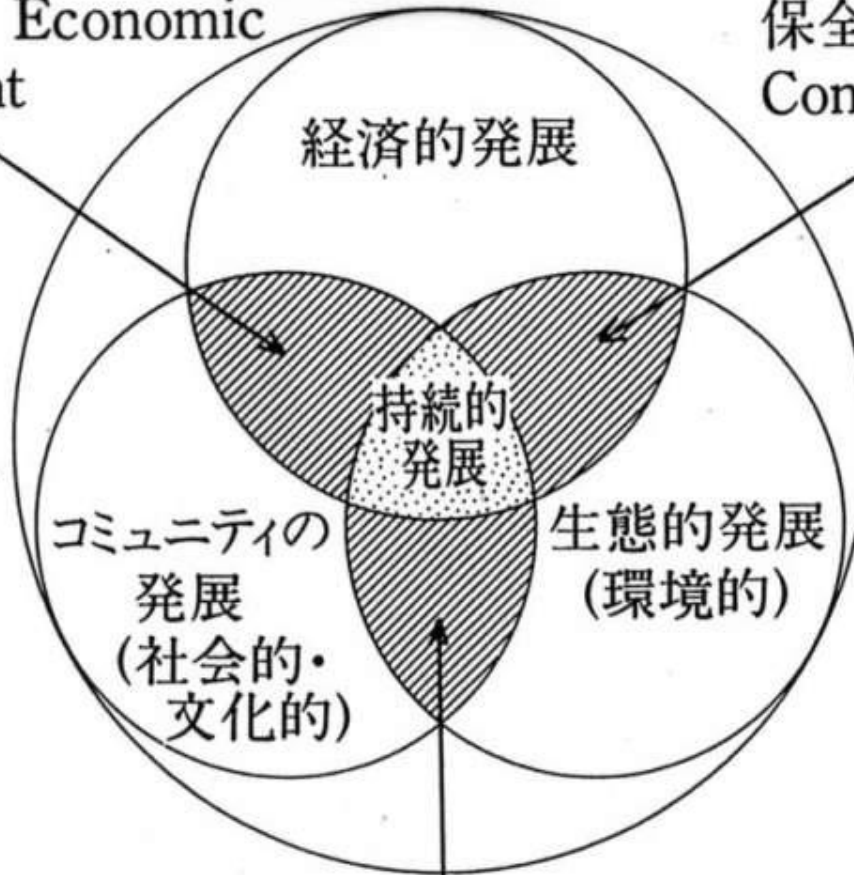


入善町古黒部地区の懇親会

96 8 16

コミュニティ・経済的發展
Community Economic
Development

保全主義
Conservationism



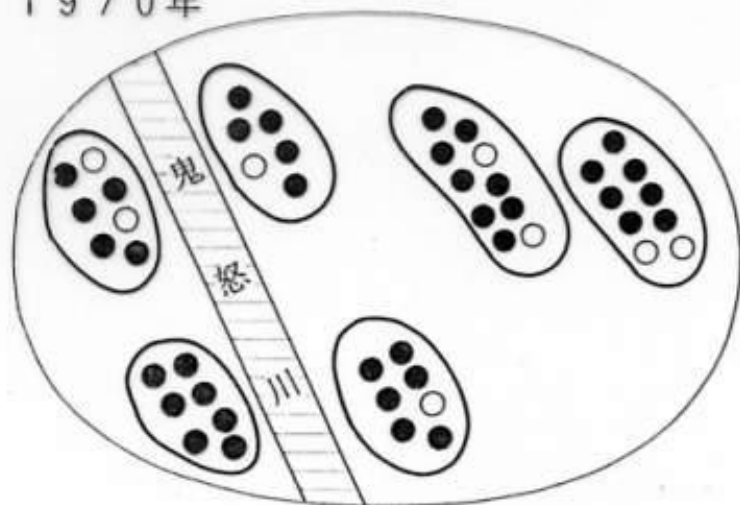
自然回歸指向
Deep Ecology

農村における持続的發展の基本的考え方

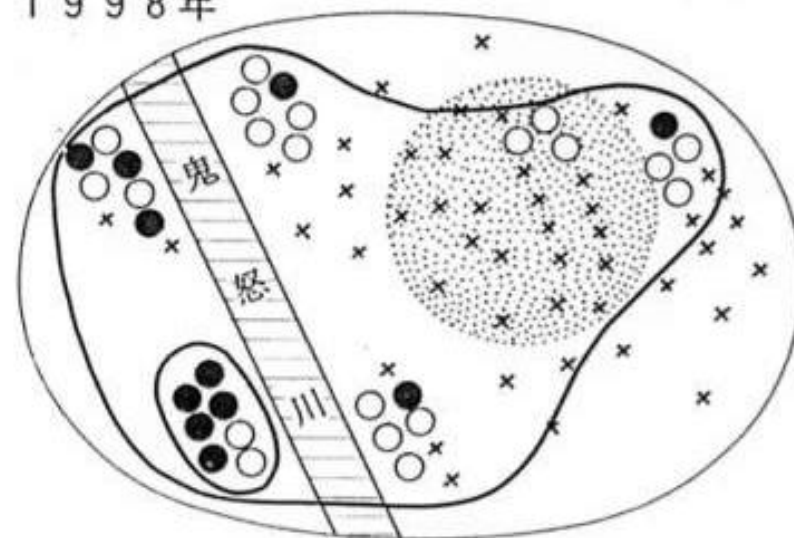


守谷女性農業クラブの移動研修

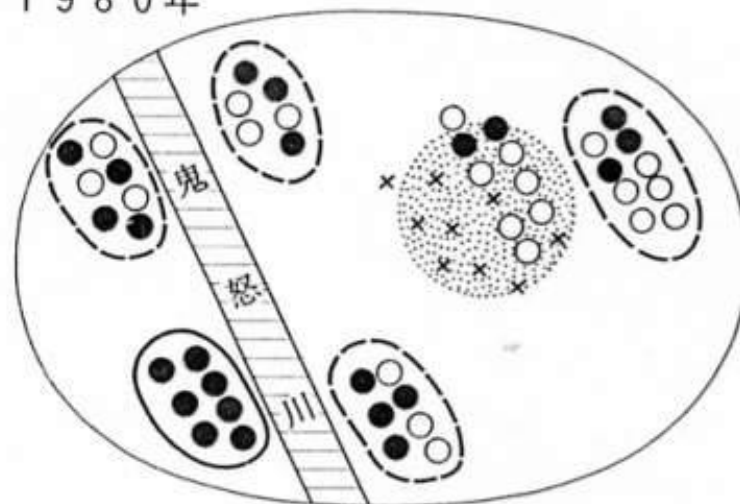
1970年



1998年



1980年



都市化地域

● 農業主

○ 兼業主

× 非農業

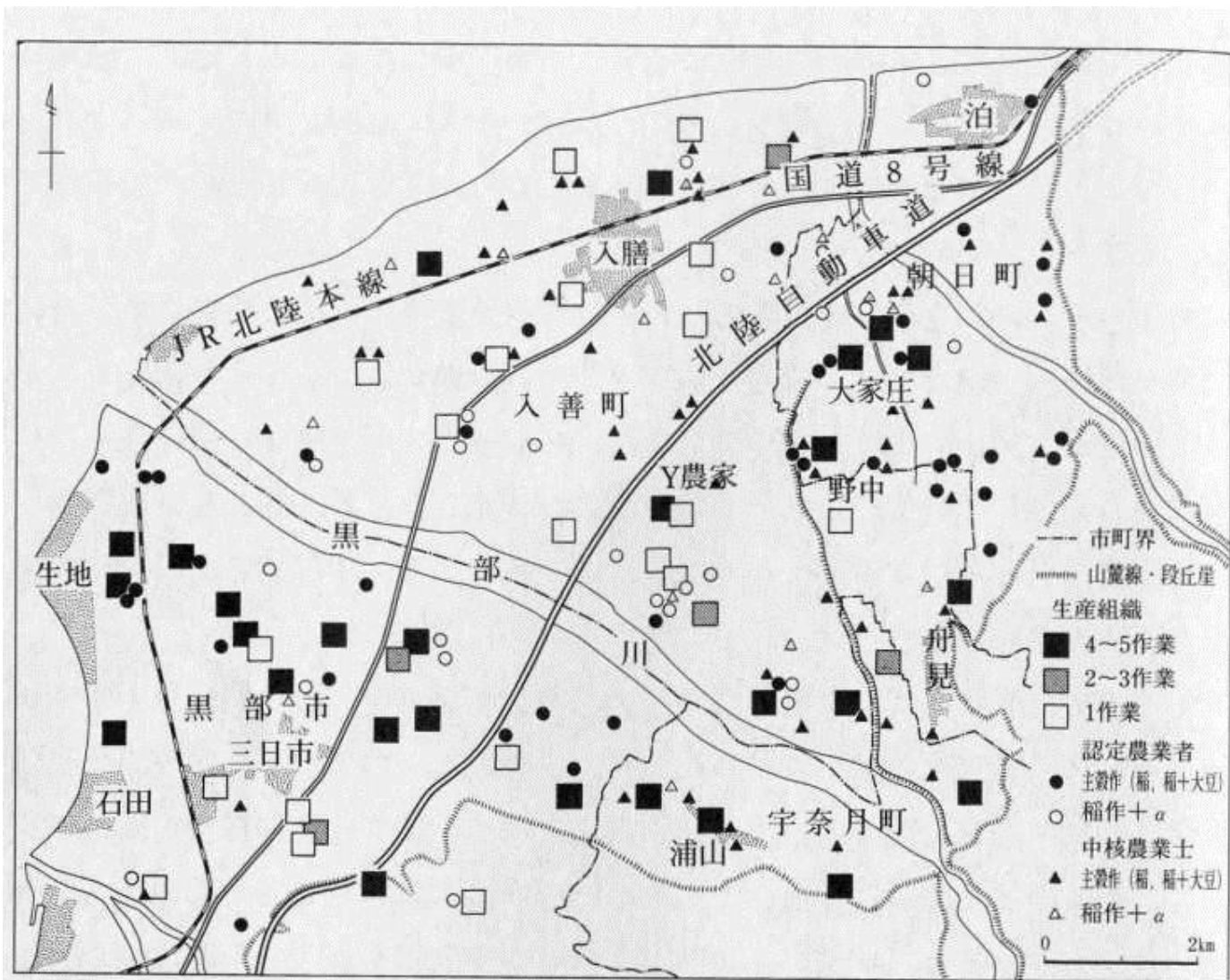
○ 強いまとまり

○ 弱いまとまり

茨城県守谷町における農業就業者の減少と農村の再編

4-7.研究 の継続と 新しい展 開:農業 の担い手

黒部川 扇状地 における 大規模 借地農



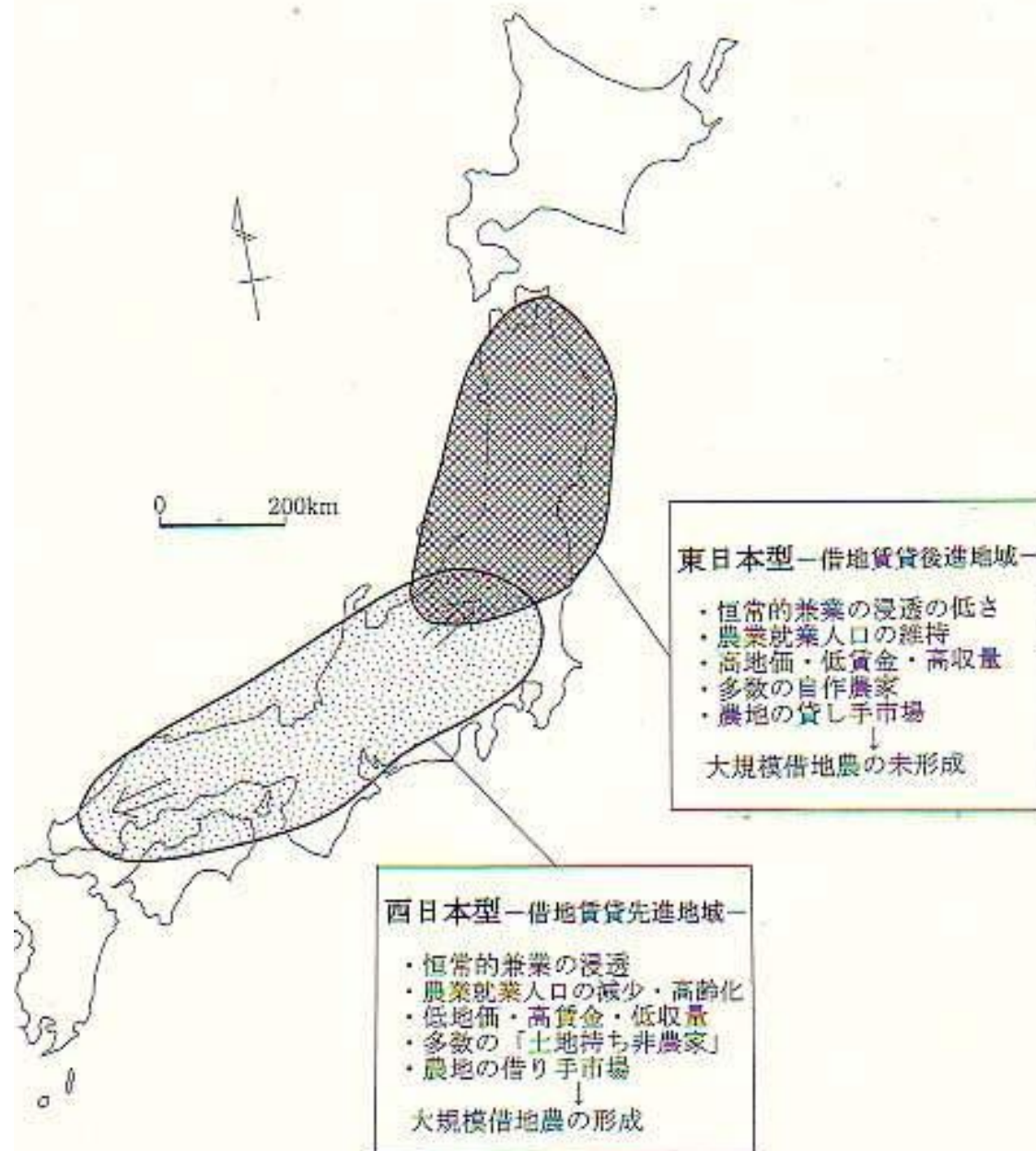
第 6.5 図 黒部川扇状地における大規模稲作経営体の分布 (2001年)



受け取り風景(1997年4月, 鬼原六義氏撮影)



黒部川扇状地の大規模稲作経営体の育苗施設(2002年8月)



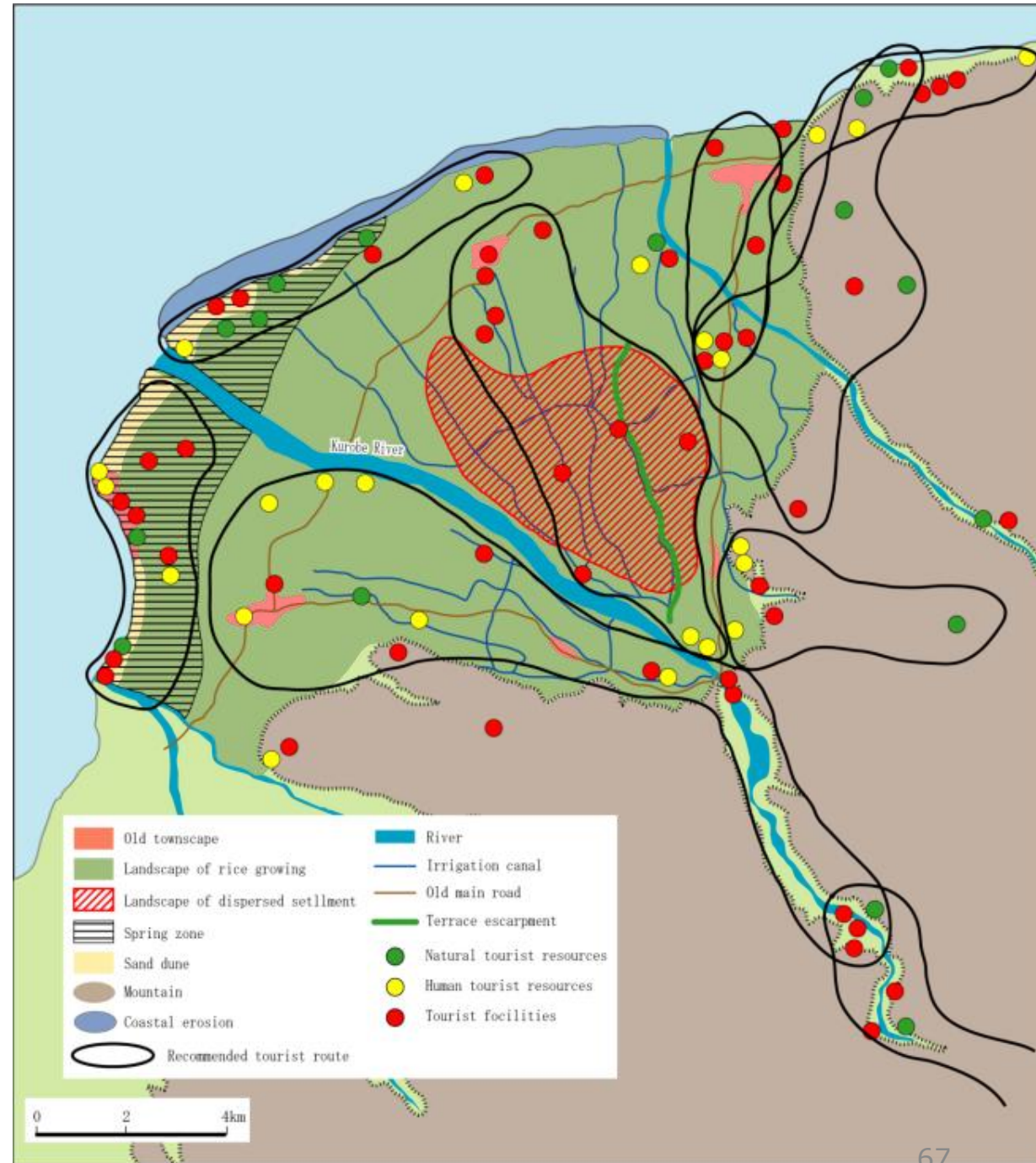
大規模借地型農業経営の拡大(細山, 2001により作成)

4-8. 研究の継続と新たな展開：農村空間の商品化

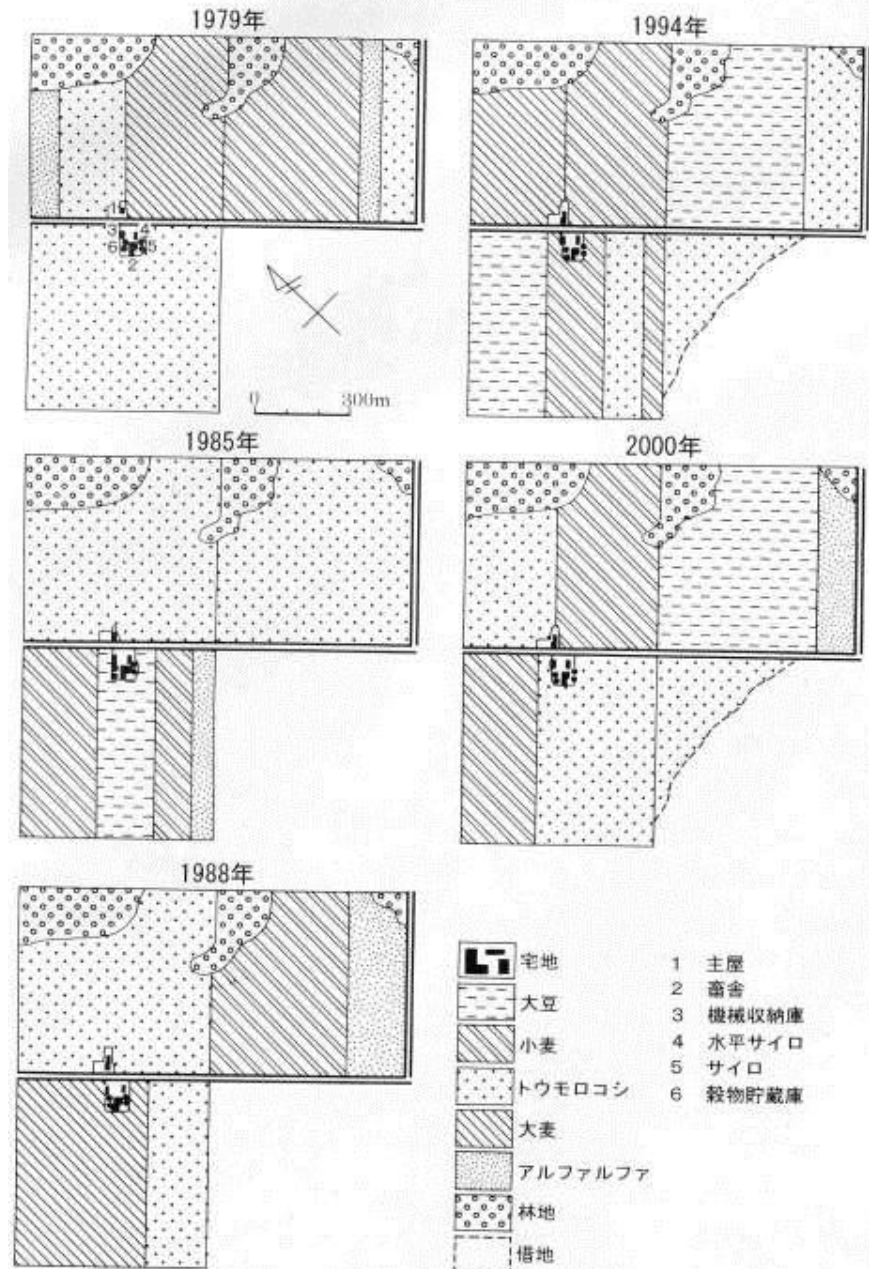


静岡市増地区のマル増いちご狩り組合(第1駐車場)

4-8. 研究の
継続と新しい
展開：農村空
間の商品化
黒部川扇状
地の農村空
間の商品化
による新し
い観光資源

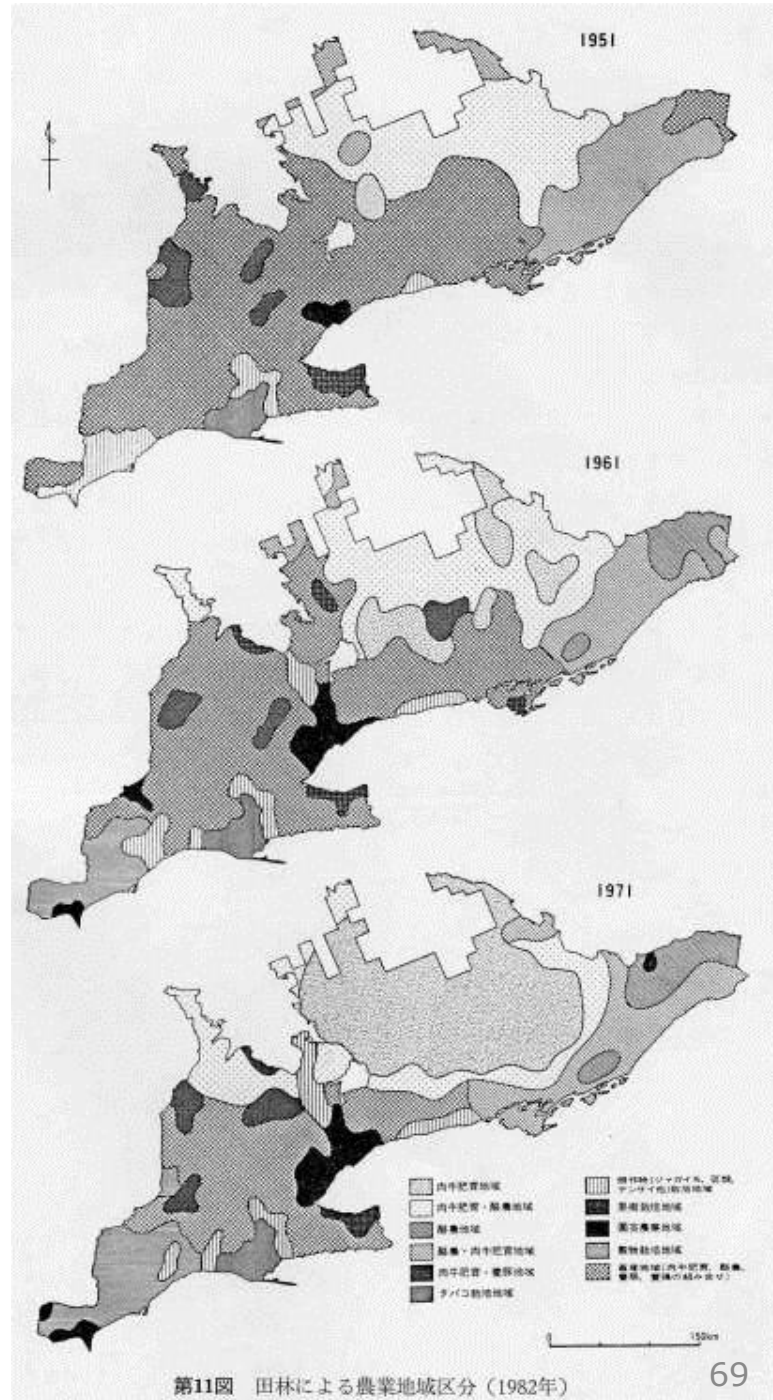


4-9. 研究の継続と新しい展開:カナダG農場(肉牛肥育)の変化

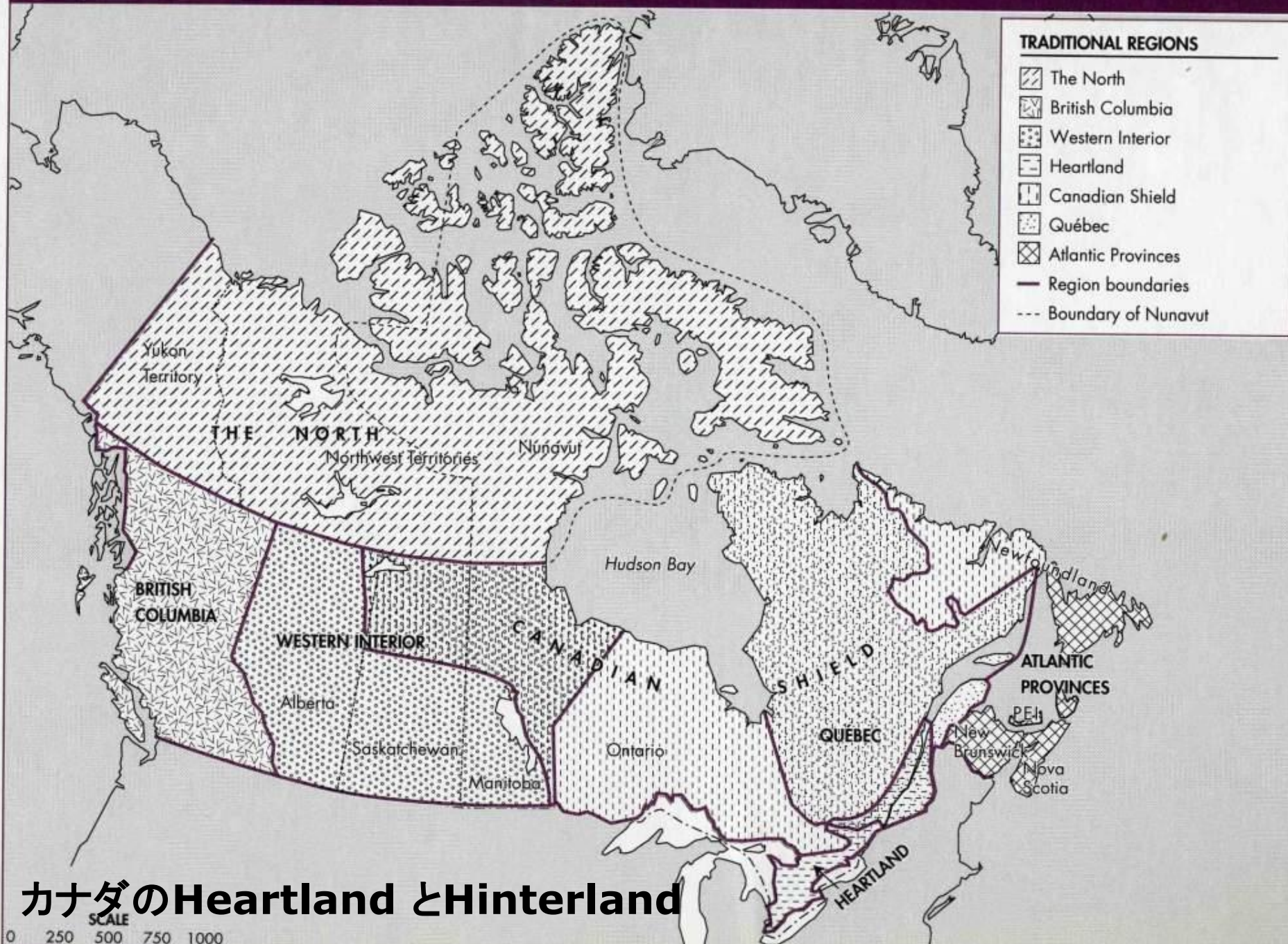


第2図 G農場の土地利用変化(1979-2000年)
聞き取りにより作成。

4-9. 研究の継続と新しい展開:カナダ 南オントリオの農業地域の変化



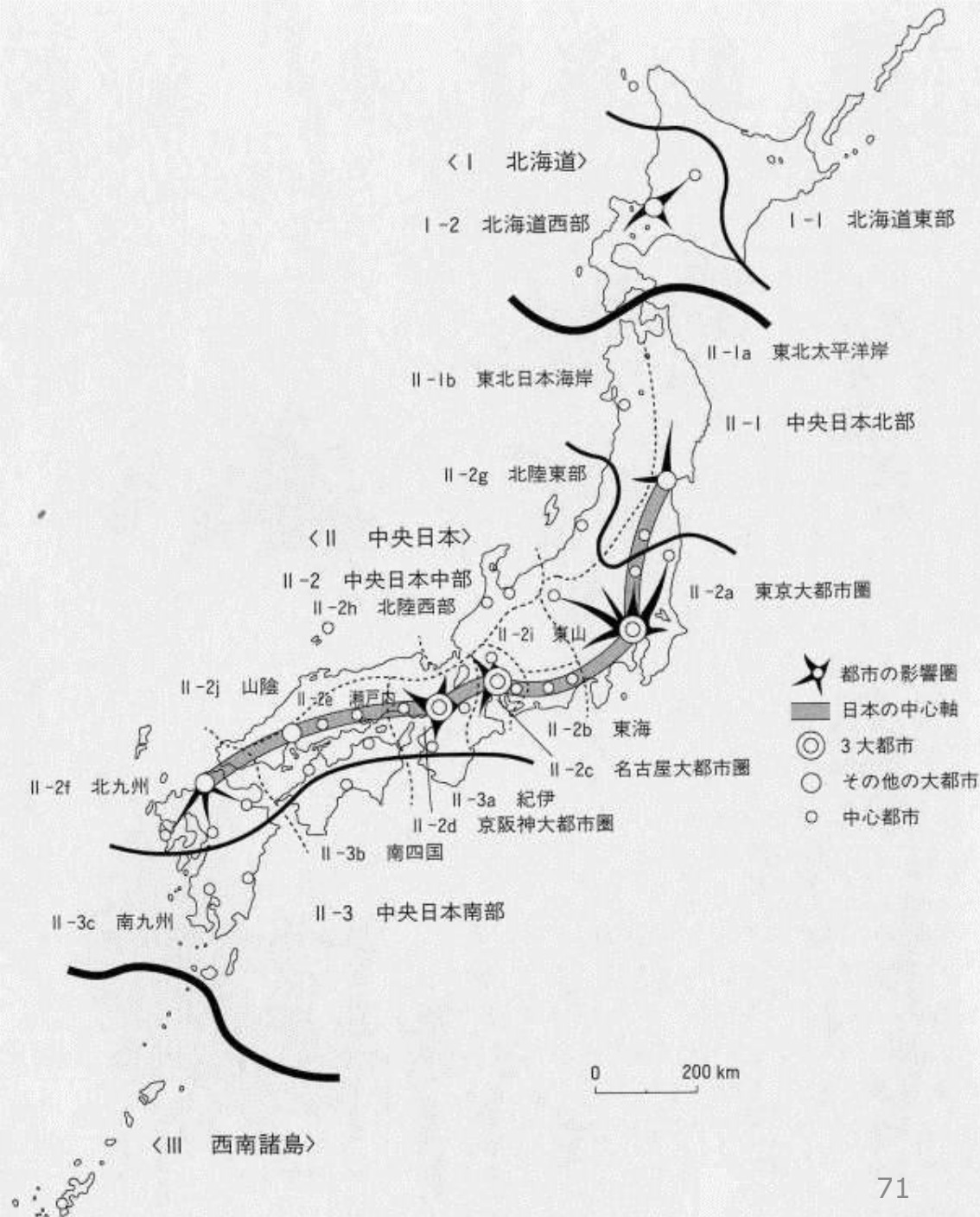
Traditional Pattern of Canadian Regions



カナダのHeartland とHinterland

4-10.研究の継続 と新しい展開:日 本地誌

日本の地域 構造



5. むすび

- 地域調査の際に最も重要なことは、地域の現象の基本的方向性についてのイメージをつかむことであり、そのためにはキーパーソンに対する時間をかけた丁寧な聞き取りが有効である。
- キーパーソンを見つけること、その人から有効な情報を引き出すことが、地域調査の鍵となる。
- そのイメージを実証するための、データを集める。
- 1つの地域を丁寧に継続的に見ることは、農業・農村地理学を多面的に展開するために重要な方法の1つであろう。